

令和5年度
MICE総消費額等調査事業
報告書

令和6年3月
観光庁

目次

1. 本調査事業の目的と背景	2
2. 調査実施内容	3
(1) 本調査における国際会議の定義	3
(2) 調査方法及び調査項目	3
(3) 調査概要	6
3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出	9
(1) 総消費額の算出	9
(2) 参加者消費額	10
(3) 主催者消費額	21
(4) 出展者消費額	28
4. 参加者アンケートからの考察	32
(1) 参加者属性についての調査	32
(2) 国際会議参加に伴う宿泊数	34
(3) 国際会議の会期前後の観光旅行	39
(4) 会議開催地に期待する体験コンテンツ	41
(5) 国際会議参加前後の開催国内での観光への関心	42
5. 主催者アンケートからの考察	44
(1) オンライン配信についての調査	44
(2) 他国との比較における日本開催の課題	48
6. 出展者アンケートからの考察	50
(1) 地方公共団体、コンベンションビューローに望む支援策	50
7. 有識者へのヒアリングへの実施	51
8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮	53
(1) ハイブリッド開催の現状	53
(2) サステナビリティへの配慮	55
9. MICE簡易測定モデルの改定または新規作成方針の検討	61
10. 資料編	63
アンケート調査票	
①参加者向け調査票	
②主催者向け調査票	
③出展者向け調査票	

1. 本調査事業の目的と背景

観光庁では、2016年度より、日本で開催された国際MICEによる経済効果の算出を実施しているが、コロナ禍を経て国際会議の開催形態が多様化し、収入や支出の構造が変化している。そのため、従来の消費額算出の方法では、実態を反映した金額が算出されない可能性がある。本事業では、改めて国際会議の消費に関する実態調査を行い、最新の国際会議開催における消費の実態及び経済効果について考察する。さらに本調査をもとに、現行のMICE簡易測定モデル改訂を視野に、今後のMICE開催による経済効果算出等の基礎データとすることを目的とする。

コロナ禍により、多くのMICEが中止や延期となったため対面開催は激減し、それに伴い経済効果も大きく減少した。2020年夏頃から、ハイブリッド開催が徐々に増加したが、現在ではようやく以前のような対面開催も戻ってきた。一方で、オンライン参加の利便性から今後も一定の需要は残ると想定される。また、主催者にとっては、オンラインは配信にかかる機材費や人件費等が、新たな経費支出となったが、従来の現地参加者に加え、オンライン参加者を新たに加えることにより、開催収入がコロナ前より増加するケースもあり、開催形態の多様化によって、主催者の収入及び支出の中身も構造的に変化していると考えられる。本事業では、こうした背景を踏まえて調査・分析を行った。

2. 調査実施内容

(1) 本調査における国際会議の定義

本調査において対象とした国際会議は、日本政府観光局(JNTO)の定めた基準を満たしているものとした。

JNTOの基準とする国際会議要件は下記のとおりである。

*以下の1)~4)の全てを満たす会議を「国際会議」とする。

1)主催者が「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」または「国家機関・国内団体」

（各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていない民間企業」以外はすべて）

2)参加者数：50名以上

3)参加国数：日本を含む3居住国・地域以上

4)開催期間：1日以上

(2) 調査方法及び調査項目

①調査方法

調査はすべてウェブアンケートにて参加者、主催者、出展者を対象に行った。主催者へのアンケートは主催者に直接回答を依頼し、参加者及び出展者へのアンケートは当該国際会議の主催者を通じて、各参加者、出展者に回答の協力を呼びかけた。

②調査項目

参加者、主催者、出展者それぞれについて、MICE開催に伴う消費額を項目別に調査した。調査項目は可能な限りその数を減らして回答負担を軽減する必要がある一方で、産業連関表の分野が異なる消費項目については分けて調査をすることが求められる。また、本調査においては過去の調査票をベースとしつつも、ハイブリッド化やサステナビリティへの関心の高まり等の変化等を反映して新たな調査項目を追加した。

なお、過去調査において調査項目として設定したものの、その金額が極めて小さく、ウェブアンケート調査での回答負担を高める可能性があり、かつ把握する意義が薄いと判断された項目（例：ガソリン代、駐車場代、外食・中食の分け等）については削除した。参加者、主催者、出展者それぞれについて把握する消費項目と産業連関表（全国）との対応表は以下のように整理した。

2. 調査実施内容

図 参加者向けアンケート調査項目

消費額に係る調査項目

国際交通費・利用エアライン（日系/外資系）	海外居住者のみ
国内交通費（開催都道府県まで）	開催都道府県までの交通費については発地と着地で按分 催事開催期間中とその後の旅行等期間中の比率について把握することで、ブレッジャー消費額の概算が可能
国内交通費（開催都道府県内）	
宿泊費	
飲食費	
買物費（研究・業務関連）	
買物費（その他お土産）	
観光・娯楽費	
その他（内容も自由回答で把握）	
パッケージツアー費	含まれる費用項目（交通、宿泊、飲食、観光等）を把握し按分
総消費額	—

産業関連表該当部門

運輸・郵便
運輸・郵便
運輸・郵便
対個人サービス
対個人サービス
情報通信（出版）
複数分野に按分※1
対個人サービス
回答内容に応じて按分
複数分野に按分※2
—

※1：観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」内の土産代構成比に応じて各分野に按分する
 ※2：アンケート調査で把握したパッケージツアー非利用者の各消費項目の金額比に応じて各分野に按分する

図 主催者向けアンケート調査項目

会場利用料	展示ホール、控室等も含めた総額
リアルタイムオンライン会議費	併設した場合のみ
オンデマンド配信費	配信を行った場合のみ
併設オンライン展示会費	オンライン展示を設定した場合のみ
会場装飾・工事費	設営、看板・装飾、電気工事等
機材レンタル費	什器、音響・照明・映像・通訳機器等
運営管理費	通訳、翻訳関連、警備等
専用回線等の回線利用料	専用回線の敷設・利用等
システム利用料	登録、演題・論文処理システム等
付随イベント費	本催事以外のパーティー等
参加者向け飲食費	無料での提供がある場合のみ
運送・輸送費	各種用品の運搬
印刷費	各種印刷費用
広告宣伝費	広報資料制作費、配布資料作成費等
臨時人件費	受付・事務局スタッフ等
事務局経費	事務用品調達等、人件費は除く
スタッフ宿泊費	準備期間も含めた総滞在日数分 ただし、臨時雇用の宿泊費等は臨時人件費に含める（可能な限り）
スタッフ飲食費	
スタッフの開催都道府県までの交通費	
スタッフの開催都道府県内交通費	
その他	
総消費額	—

対事業所サービス
情報通信
情報通信
情報通信
対事業所サービス
対事業所サービス
対事業所サービス
情報通信
情報通信
対個人サービス
対個人サービス
運輸・郵便
その他の製造工業製品
対事業所サービス
対事業所サービス
事務用品
対個人サービス
対個人サービス
運輸・郵便
運輸・郵便
回答内容に応じて按分
—

赤字の調査項目は前回調査時から追加したもの

2. 調査実施内容

図 出展者向けアンケート調査項目

消費額に係る調査項目		産業連関表該当部門
出展料・ブース利用料	産業連関分析では利用しない	—
併設オンライン展示会出展料	⇒重複除去のため	—
会場装飾・工事費	ブース設営、看板・装飾、電気工事等	対事業所サービス
機材レンタル費	什器、音響・照明・映像・通訳機器等	対事業所サービス
運営管理費	通訳、翻訳関連、警備等	対事業所サービス
付随イベント費	本催事以外のパーティー等	対個人サービス
参加者向け飲食費	無料での提供がある場合のみ	対個人サービス
運送・輸送費	各種用品の運搬	運輸・郵便
印刷費	広報資料制作費、配布資料作成費等	その他の製造工業製品
広告宣伝費	製品の広告・宣伝費等	対事業所サービス
臨時人件費	受付・事務局スタッフ等	対事業所サービス
事務局経費	事務用品調達等、人件費は除く	事務用品
スタッフ宿泊費	準備期間も含めた総滞在日数分 ただし、臨時雇用の宿泊費等は臨時人件費に含める（可能な限り）	対個人サービス
スタッフ飲食費		対個人サービス
スタッフの開催都道府県までの交通費		運輸・郵便
スタッフの開催都道府県内交通費		運輸・郵便
その他		回答内容に応じて按分
総消費額	—	—

赤字の調査項目は前回調査時から追加したもの

2. 調査実施内容

(3) 調査概要

①調査設計

(ア) 参加者

2023年度開催の国際会議から要件に合致する会議を抽出し、それらの実地参加者に対して、日本滞在中の消費額について、下記の要領でウェブアンケート調査を行なった。会議は観光庁令和4年度補正予算事業「ポストコロナに向けた国際会議競争力向上事業」の採択会議43件の中から35件、今年度開催の医療系会議をウェブ調査にて28件、JNTOやコンベンションビューローからの紹介により19件を抽出し、計82件を対象に、統計学上必要とされる2000件以上の回収を目指した。

1)国内居住者と国外居住者に分けて調査した。

国外居住者については居住地域が消費額に影響する傾向があるかを確認するため、居住国・地域のエリア分析を念頭に、調査設計した。

2)会議の分野を医療系か医療系以外かに分けて調査した。

3)会議の開催地を三大都市圏*とそれ以外に分けて調査した。

4)調査結果は上記1)2)3)を組み合わせたマトリックスで提示する。

*三大都市圏：東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県、愛知県・岐阜県、大阪府・京都府・兵庫県・奈良県

(イ) 主催者

2022年4月以降に開催された国際会議の主催者に対し、主催者消費額について、下記の要領でウェブアンケート調査を行なった。

1)現地開催会議とハイブリッド開催会議に分けて分析する。

現地開催については観光庁令和4年度補正予算事業「ポストコロナに向けた国際会議誘致競争力向上事業」の採択会議43件、ハイブリッド開催については観光庁令和3年度補正予算事業「ハイブリッド国際会議実証事業」の採択会議30件の中から、医療/非医療、三大都市圏等を考慮して対象会議を抽出。特にハイブリッド開催については、実施方法、規模、内容等が主催者消費額の算出に与える影響を考慮する。

2) 会議の分野を医療系か非医療系かに分けて調査した。

3)会議の開催地を三大都市圏かそれ以外かに分けて調査した。

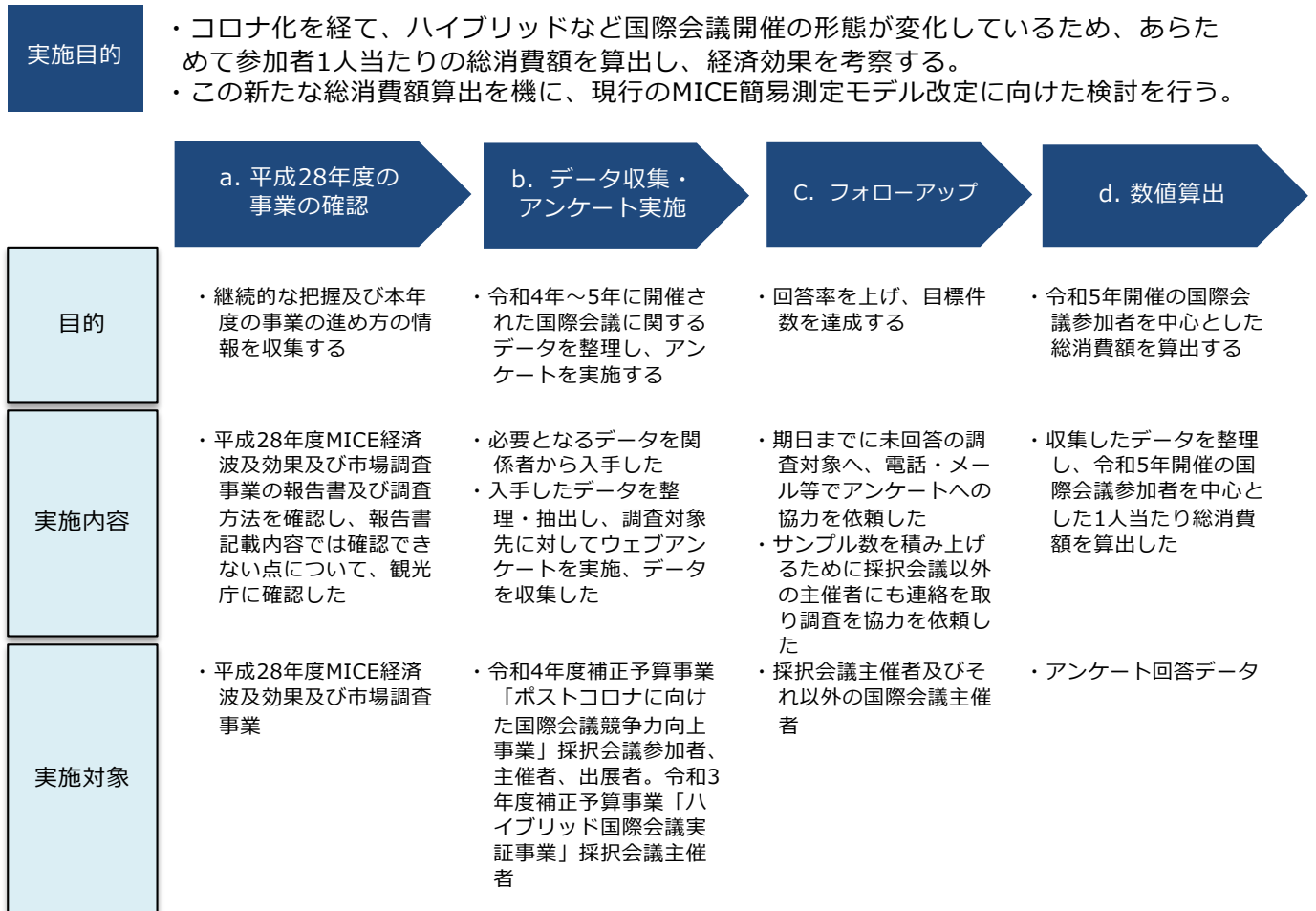
4)調査結果は上記①②③を組み合わせたマトリックス別に提示する。

(ウ) 出展者

2022年4月以降に開催された観光庁令和3年度補正予算事業「ハイブリッド国際会議実証事業」の採択会議30件および参加者アンケートにて抽出した82件の国際会議に付随して開催された展示会に出展した企業・団体に出展者消費額について、ウェブアンケート調査を行なった。

2. 調査実施内容

②調査実施フロー



2. 調査実施内容

③回収サンプル集計結果

参加者アンケートの回収サンプル数は、国内居住者1,594、海外居住者696で合計2,290であった。うち、定性分析有効回答数は国内居住者1,139、海外居住者369で合計1,508であり、消費額分析有効回答数は国内居住者1,466、海外居住者642で合計2,108であった。主催者アンケートの回収サンプル数は55となり、うち定性分析有効回答数は55、消費額分析有効回答数は50であった。また、出展者アンケート回収サンプル数は109となり、うち定性分析有効回答数は109、消費額分析有効回答数は89であった。

図 アンケート回収サンプル数

対象		回収数	定性分析 有効回答数	消費額分析 有効回答数
参加者	国内居住者	1,594	1,139	1,466
				242 (うち日帰り)
	1224 (うち宿泊あり)			
海外居住者	696	369	642	
主催者		55	55	50
出展者		109	109	89

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

(1) 総消費額の算出

参加者1人当たり消費額は、前回調査と比較してカテゴリーを問わず大きく伸びている。特に海外居住者の伸びが大きい。中でも三大都市圏以外の会議に参加した海外居住者の伸びは、三大都市圏の参加者よりも大きい。一方、参加者1人当たりの主催者消費額は、医療系以外の三大都市圏において伸びがみられるものの、それ以外のカテゴリーでは微増か大きなマイナスという結果となった。参加者1人当たりの出展者消費額は今回は医療系か医療系以外かの調査となったが、いずれも前回調査の三大都市圏における消費額に近い金額となった。

図 カテゴリー別参加者1名当たりの消費額

今回調査（単位：円）

	医療系× 三大都市圏		医療系× 三大都市圏以外		医療以外× 三大都市圏		医療系以外× 三大都市圏以外	
	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住
参加者	81,915	443,641	110,696	642,900	69,976	453,395	83,402	448,157
主催者	70,928		46,435		87,807		62,359	
出展者	15,181				55,383			

前回調査（平成28年度）（単位：円）

	医療系× 三大都市圏		医療系× 三大都市圏以外		医療以外× 三大都市圏		医療系以外× 三大都市圏以外	
	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住
参加者	55,017	356,815	80,040	256,228	34,166	300,328	74,642	162,656
主催者	67,014		152,422		56,084		103,931	
出展者	12,356		3,752		53,780		7,802	

前回からの増減（単位：円）

	医療系× 三大都市圏		医療系× 三大都市圏以外		医療以外× 三大都市圏		医療系以外× 三大都市圏以外	
	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住	国内居住	海外居住
参加者	26,898	86,826	30,656	386,672	35,810	153,068	8,760	285,501
主催者	1,928		-101,677		18,581		-40,729	
出展者	-		-		-		-	

※前回より調査項目に一部変更があるため、増減は共通の項目のみで計算している。 9

3. 国際会議の参加者1人あたり総消費額の算出

(2) 参加者消費額

①国内居住者

分類別に国内参加者と海外参加者1人あたり消費額を算出した。その結果、国内参加者1人あたりの消費額は、87,630円という結果であった。

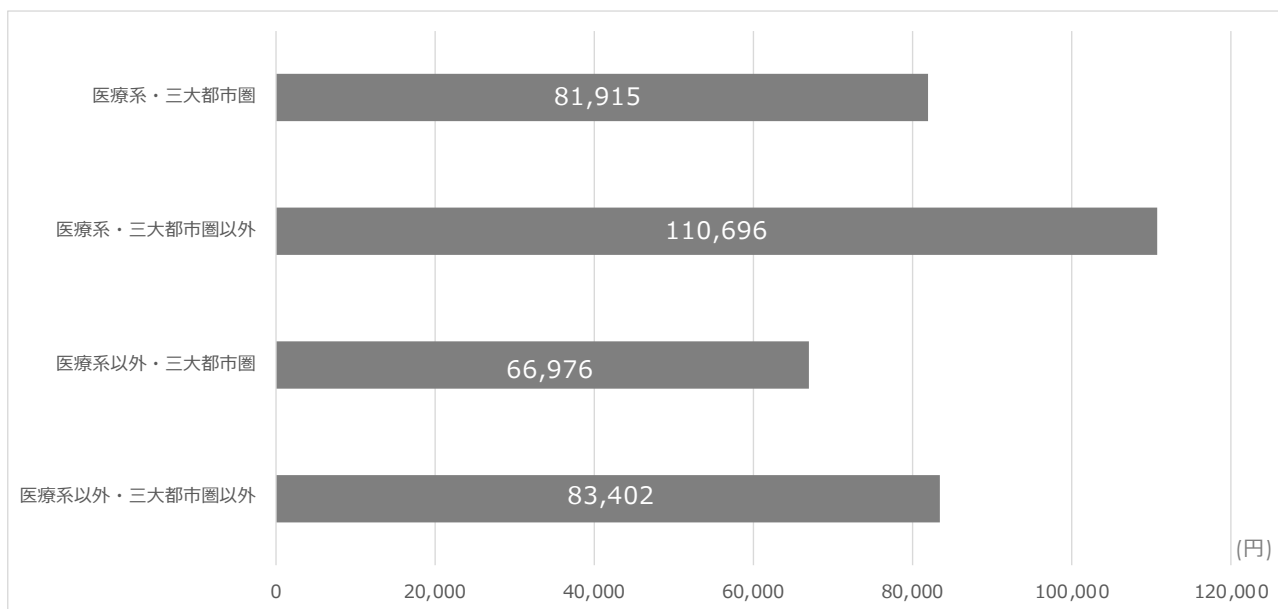
分類別では、「医療系かつ三大都市圏開催の国際会議」では81,915円、「医療系かつ三大都市圏外開催の国際会議」では110,696円、「医療系以外かつ三大都市圏開催の国際会議」では69,976円、「医療系以外かつ三大都市圏外開催の国際会議」では約83,402円であった。

図 国際会議参加者（国内居住者）1人あたりの消費額

単位：円/人	三大都市圏	三大都市圏以外	テーマ別消費額
医療系	81,915	110,696	100,544
医療系以外	66,976	83,402	79,079
立地別消費額	74,995	93,973	87,630

※「テーマ別消費額」、「立地別消費額」、「全体の消費額」は、各分類の総消費額を各分類の参加者人数で除した数値を記載

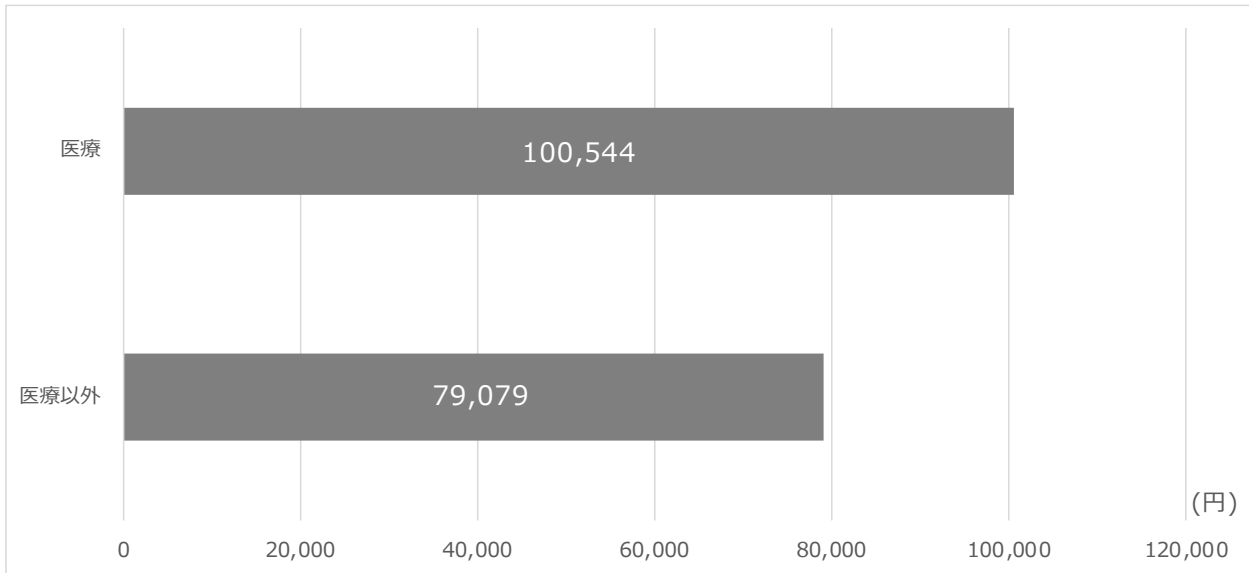
図 国際会議参加者（国内居住者）1人あたりの消費額



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

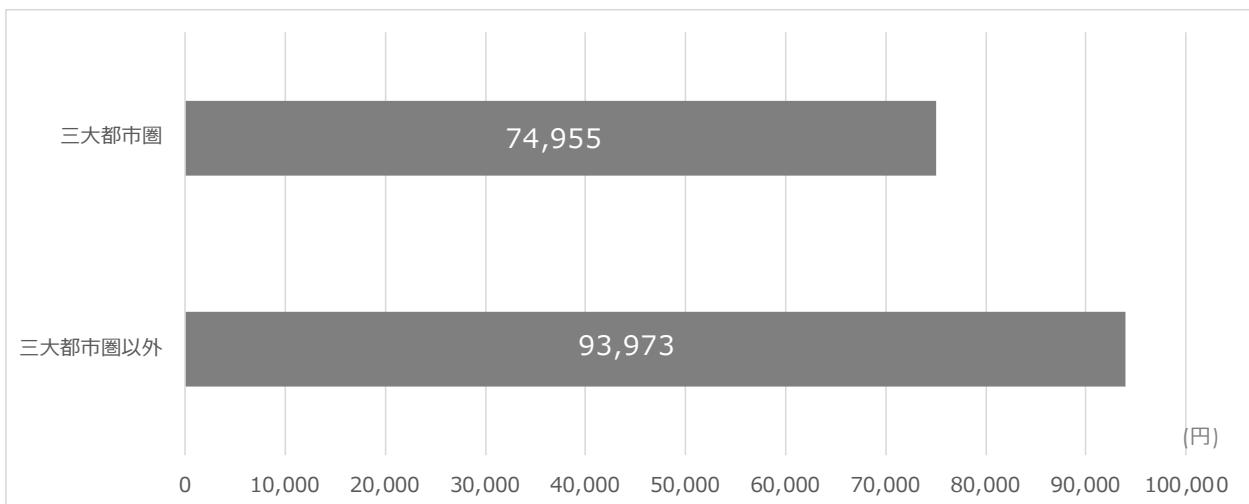
また、医療系と医療系以外で分析すると、医療系の国際会議の1人あたり消費額は100,544円、医療系以外では79,079円であった。

図 参加者（国内居住者）の1人あたりの消費額（分野別）



また、三大都市圏と三大都市圏外で分析すると、三大都市圏開催の国際会議の消費原単位は74,955円、三大都市圏外は93,973円であった。

図 参加者（国内居住者）の1人あたりの消費額（開催地別）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

国内在住の参加者1人当たりの消費額は、どのカテゴリーも前回調査から増加した。医療系以外かつ三大都市圏以外の3カテゴリーはいずれも30,000円前後の増加となった。特に顕著なのは宿泊費、飲食費である。宿泊費は医療系以外かつ三大都市圏のカテゴリーで15,711円の増加と顕著な伸びを示した。交通費の増加は主に航空運賃の高騰が考えられる。また、土産物代及び観光・娯楽費の増加も注目される。MICE推進プロモーションと共に各地域の宣伝、受け入れ態勢が強化され、消費が拡大しているものと思われる。一方で医療系かつ三大都市圏のカテゴリーにおいて買物費（研究・業務関連費）が唯一461円の減少となった。

(P.15参照)

図 参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳

今回調査（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
開催地の都道府県までの交通費	24,854	39,037	18,487	28,059
開催地の都道府県内での交通費	3,100	3,944	2,180	2,995
宿泊費	24,814	34,218	27,141	27,555
飲食費	17,371	18,073	14,441	15,617
買物費（研究・業務関連費）	1,622	2,342	754	1,183
買物費（その他土産）	6,731	8,028	3,794	5,721
観光・娯楽費	3,423	5,054	3,179	2,271
合計	81,915	110,696	69,976	83,402

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系 x 三大都市圏参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳

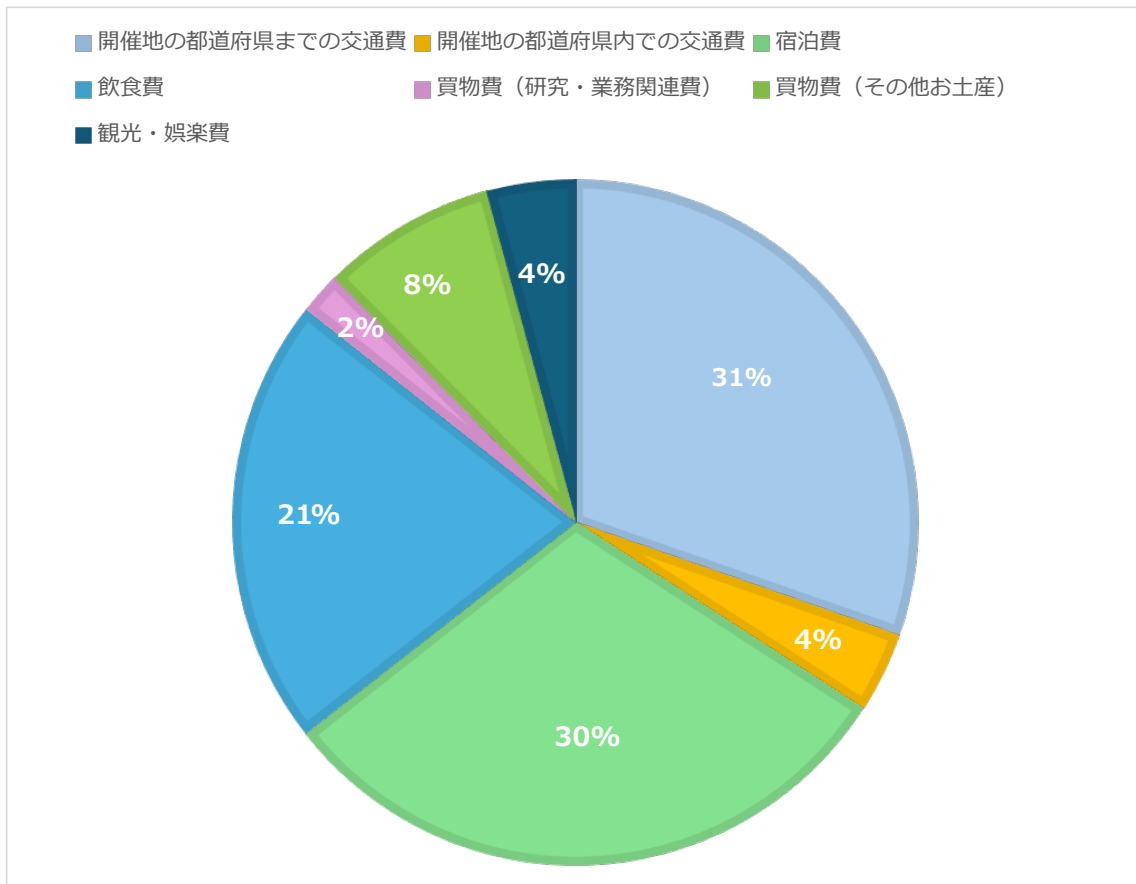
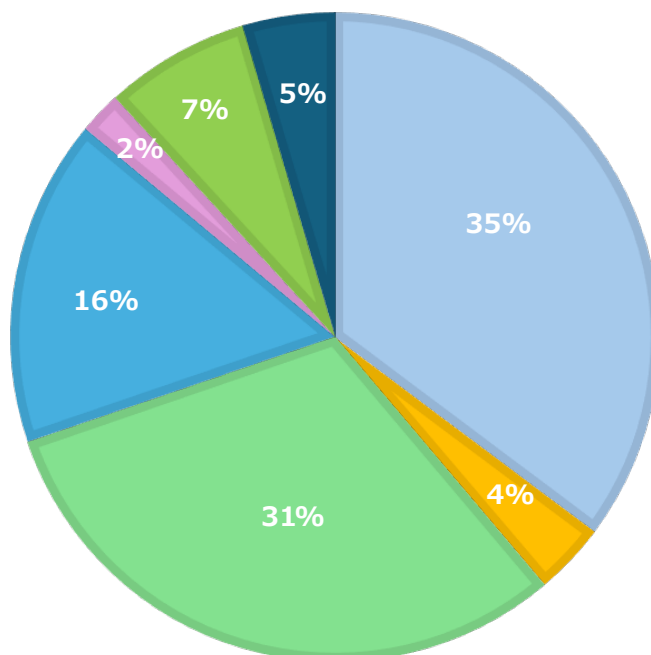


図 医療系 x 三大都市圏以外参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳

■ 開催地の都道府県までの交通費 ■ 開催地の都道府県内での交通費 ■ 宿泊費
■ 飲食費 ■ 買物費（研究・業務関連費） ■ 買物費（その他お土産）
■ 観光・娯楽費



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系以外 x 三大都市圏参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳

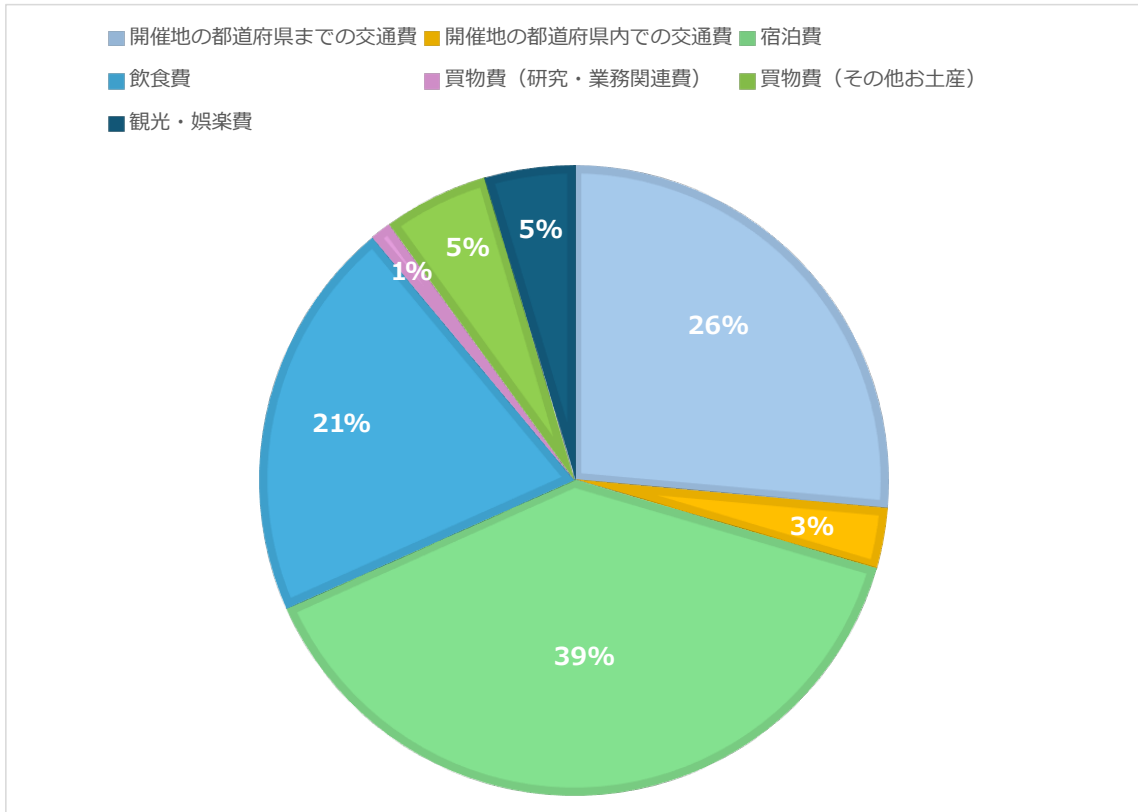
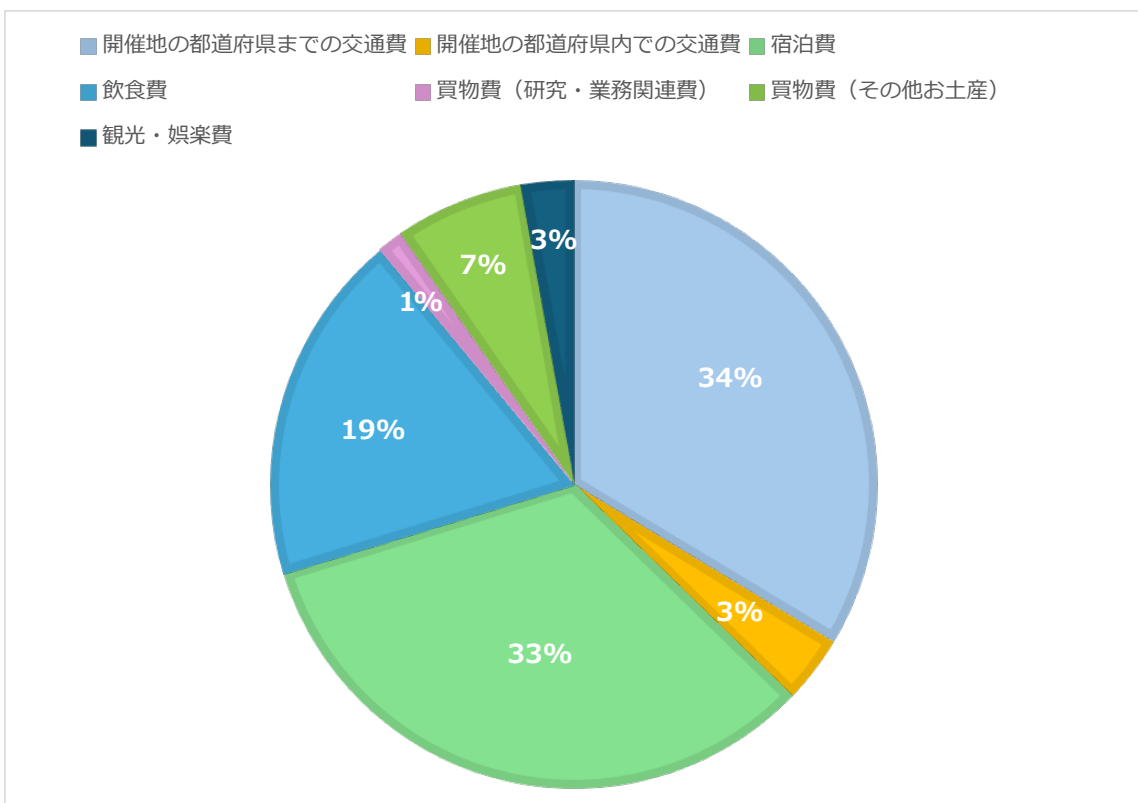


図 医療系以外 x 三大都市圏以外参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 参加者（国内居住者）1人当たりの消費額内訳

前回調査（平成28年度）（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
開催地の都道府県までの交通費	17,742	34,338	15,994	29,580
開催地の都道府県内での交通費	1,505	3,490	542	3,006
宿泊費	20,286	20,544	11,430	24,660
飲食費	9,317	11,608	4,487	11,948
買物費（研究・業務関連費）	2,084	1,713	80	106
買物費（その他お土産）	3,180	6,099	1,172	4,057
観光・娯楽費	903	2,247	460	1,285
合計	55,017	80,040	34,166	74,642

前回からの増減（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
開催地の都道府県までの交通費	7,112	4,698	2,493	-1,521
開催地の都道府県内での交通費	1,595	454	1,638	-11
宿泊費	4,527	13,674	15,711	2,895
飲食費	8,054	6,465	9,954	3,669
買物費（研究・業務関連費）	-461	628	674	1,077
買物費（その他お土産）	3,552	1,929	2,622	1,665
観光・娯楽費	2,520	2,807	2,719	986
合計	26,898	30,656	35,810	8,760

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

次に、国内居住者を日帰りおよび宿泊ありで比較すると、日帰り参加者の消費額がいずれの категорияも10,000円台であったのに対し、宿泊参加者は消費額は92,512円から118,468円と10倍前後の金額となった。当然ながら交通費、宿泊費の消費が大きく、飲食費についても滞在日数が増えるに伴い、食事回数も増えることから消費額が増える傾向にある。

図 参加者（国内居住者）消費額 日帰り・宿泊別

日帰り 今回調査（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
開催地の都道府県までの交通費	2,161	5,556	3,003	4,434
開催地の都道府県内での交通費	1,033	1,569	2,332	2,546
宿泊費	0	0	0	0
飲食費	5,535	6,792	8,248	5,170
買物費（研究・業務関連費）	787	337	805	1,021
買物費（その他お土産）	548	1,564	1,160	1,519
観光・娯楽費	24	1,349	771	1,565
合計	10,089	17,168	16,320	16,256

宿泊有り 今回調査（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
開催地の都道府県までの交通費	30,665	41,819	24,991	32,082
開催地の都道府県内での交通費	3,629	4,142	2,116	3,071
宿泊費	31,169	37,061	38,540	32,246
飲食費	20,402	19,010	17,042	17,396
買物費（研究・業務関連費）	1,836	2,508	733	1,210
買物費（その他お土産）	8,315	8,565	4,899	6,437
観光・娯楽費	4,293	5,362	4,190	2,392
合計	100,310	118,468	92,512	94,834

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

②海外居住者

一方、海外参加者 1 人あたりの消費額は、480,069円という結果であった。

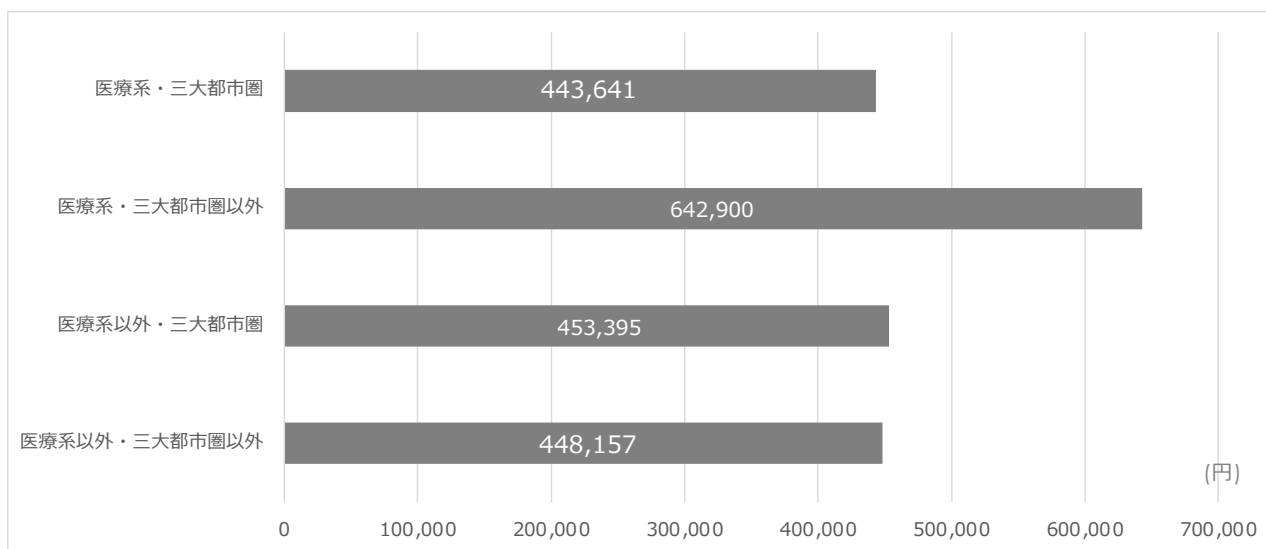
分類別では、「医療系かつ三大都市圏開催の国際会議」では443,641円、「医療系かつ三大都市圏外開催の国際会議」では642,900円、「医療系以外かつ三大都市圏開催の国際会議」では453,395円、「医療系以外かつ三大都市圏外開催の国際会議」では448,157円であった。

図 参加者（海外居住者）1人あたりの消費額平均値

単位：円/人	三大都市圏	三大都市圏以外	テーマ別消費額
医療系	443,641	642,900	615,651
医療系以外	453,395	448,157	449,853
立地別消費額	452,556	491,291	480,069

※「テーマ別消費額」、「立地別消費額」、「全体の消費額」は、各分類の総消費額を各分類の参加者人数で除した数値を記載

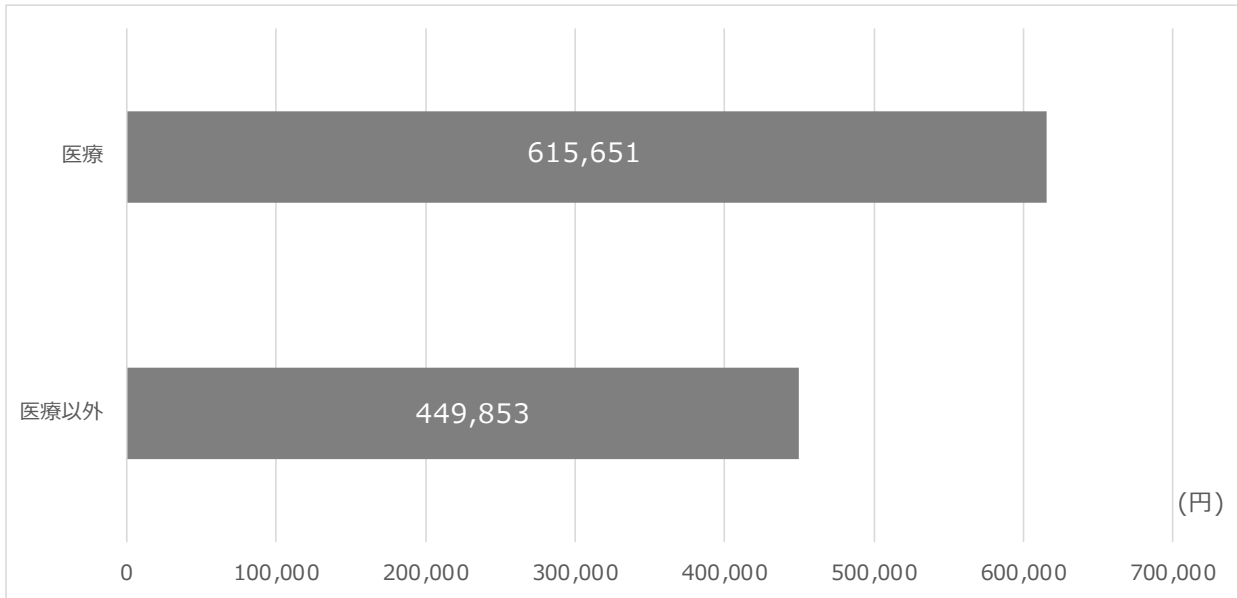
図 参加者(海外居住者) 1人あたりの消費額（分類別）



3. 国際会議の参加者1人あたり総消費額の算出

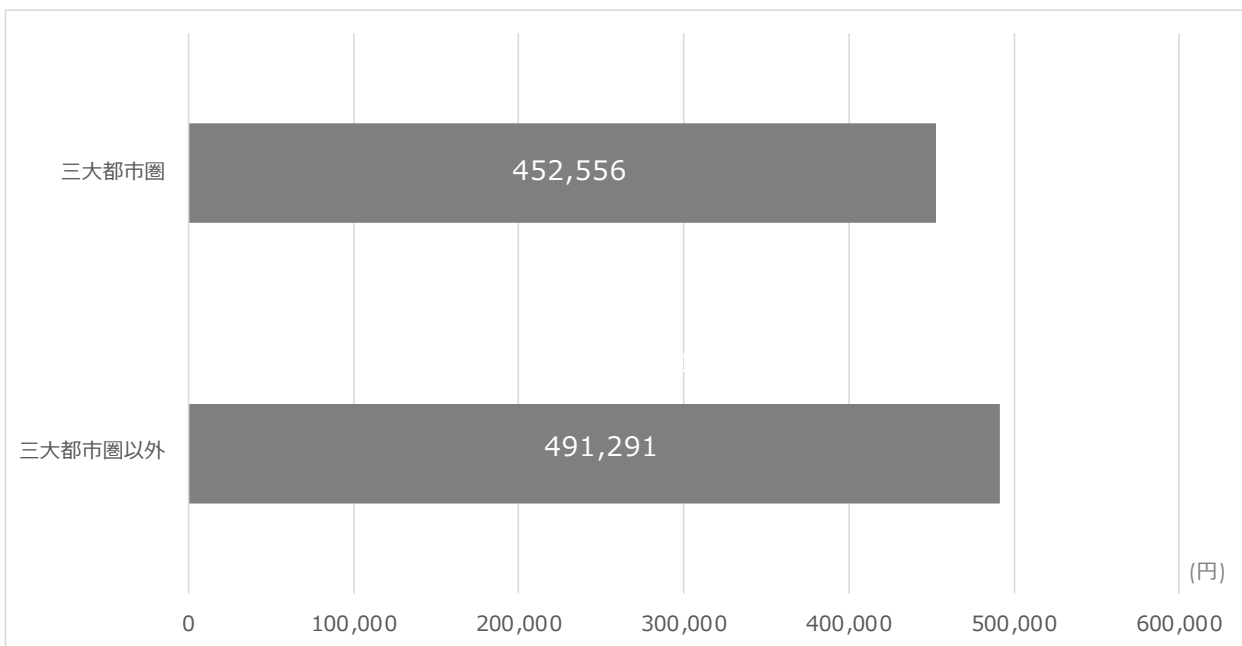
また、医療系と医療系以外で分析すると、医療系の国際会議の1人あたり消費額は615,651円、医療系以外では449,853円であった。

図 参加者（海外居住者）1人あたりの消費額（分野別）



三大都市圏と三大都市圏外で分析すると、三大都市圏開催の国際会議の消費原単位は452,556円、三大都市圏外は491,291円であった。

図 参加者（海外居住者）1人あたりの消費額（開催地別）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

海外居住者1人当たり消費額は全カテゴリーで大幅に増加した。国際航空運賃の増加が大きく影響している。宿泊費については、医療系かつ三大都市圏の宿泊消費額が15,215円の減少となったが、他のカテゴリーは23,310円から61,653円の増加となった。また、飲食費、買物費についても大きな伸びとなった。飲食費については医療系、医療系以外を問わず、三大都市圏での消費が三大都市圏以外を上回った。買物費のお土産代は全カテゴリーで伸びた。観光・娯楽費は医療系かつ三大都市圏が、わずかではあるが896円の減少となったが、他のカテゴリーはいずれも増加となった。海外居住者は航空運賃や宿泊代の高騰がありながらも、会議参加のために訪日し、強い消費意欲を発揮していることが伺える。

図 参加者（海外居住者）1人当たりの消費額内訳

今回調査（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
国際航空費	202,555	311,186	213,940	189,220
国内航空費	3,537	22,323	9,021	15,453
開催地の都道府県までの往復交通費	19,812	30,236	11,278	17,417
開催地の都道府県内での交通費	8,657	9,862	6,549	8,041
宿泊費	100,973	138,003	117,225	98,218
飲食費	42,463	54,848	36,423	40,456
買物費（研究・業務関連）	7,087	10,281	6,922	12,462
買物費（その他お土産）	45,765	32,261	40,243	48,798
観光・娯楽費	12,792	33,900	11,794	18,092
合計	443,641	642,900	453,395	448,157

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 参加者（海外居住者）1人当たりの消費額内訳

前回調査（平成28年度）（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
国際航空費	136,465	96,116	119,363	63,538
国内航空費	842	456	1,735	7,301
開催地の都道府県までの往復交通費	12,785	10,386	10,435	4,877
開催地の都道府県内での交通費	4,212	896	5,905	4,506
宿泊費	116,188	76,349	94,115	43,432
飲食費	35,978	27,794	33,483	20,131
買物費（研究・業務関連）	12,664	4,759	5,522	3,419
買物費（その他お土産）	23,992	28,420	21,002	9,817
観光・娯楽費	13,688	11,052	8,767	5,635
合計	356,815	256,228	300,328	162,656

前回からの増減（単位：円）

	医療系× 三大都市圏	医療系× 三大都市圏以外	医療系以外× 三大都市圏	医療系以外× 三大都市圏以外
国際航空費	66,089	215,071	94,577	125,682
国内航空費	2,695	21,866	7,286	8,152
開催地の都道府県までの往復交通費	7,027	19,850	843	12,540
開催地の都道府県内での交通費	4,445	8,966	644	3,535
宿泊費	-15,215	61,653	23,110	54,787
飲食費	6,486	27,055	2,941	20,325
買物費（研究・業務関連）	-5,577	5,522	1,399	9,043
買物費（その他お土産）	21,773	3,841	19,241	38,981
観光・娯楽費	-896	22,849	3,027	12,457
合計	86,826	386,672	153,068	285,501

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

(3) 主催者消費額

参加者1人当たりの主催者消費額を調査した。4つのカテゴリーでは、「医療系以外×三大都市圏」の国際会議が87,807円と最も多く、以下「医療系以外×三大都市圏」の70,928円、「医療系以外×三大都市圏以外」の62,359円、「医療系×三大都市圏以外」の46,435円という順となった。参加者1人当たりでは三大都市圏で開催された会議の主催者消費額が、開催テーマによらず、三大都市圏以外で開催された会議の主催者消費額を上回った。特徴的なのは、三大都市圏における会場利用料が、三大都市圏以外の利用料より大幅に高くなっていることである。

前回調査との比較ではカテゴリーの順位が変化した。前は「医療系×三大都市圏以外」が152,422円で最も多く、以下「医療系以外×三大都市圏以外」が103,931円、「医療系×三大都市圏」が67,014円、「医療系以外×三大都市圏以外」が56,084円の順であった。項目別にみると、前回のトップであった「医療系×三大都市圏」では、「印刷製本費」の14,128円、「運送・輸送費」の26,883円、「運営管理費」の19,670円が他のカテゴリーに比べ、突出して金額が大きく、大量の資料を作成し、会場まで運搬した会議があったことを推測させる。今回同項目は平均的になっている。

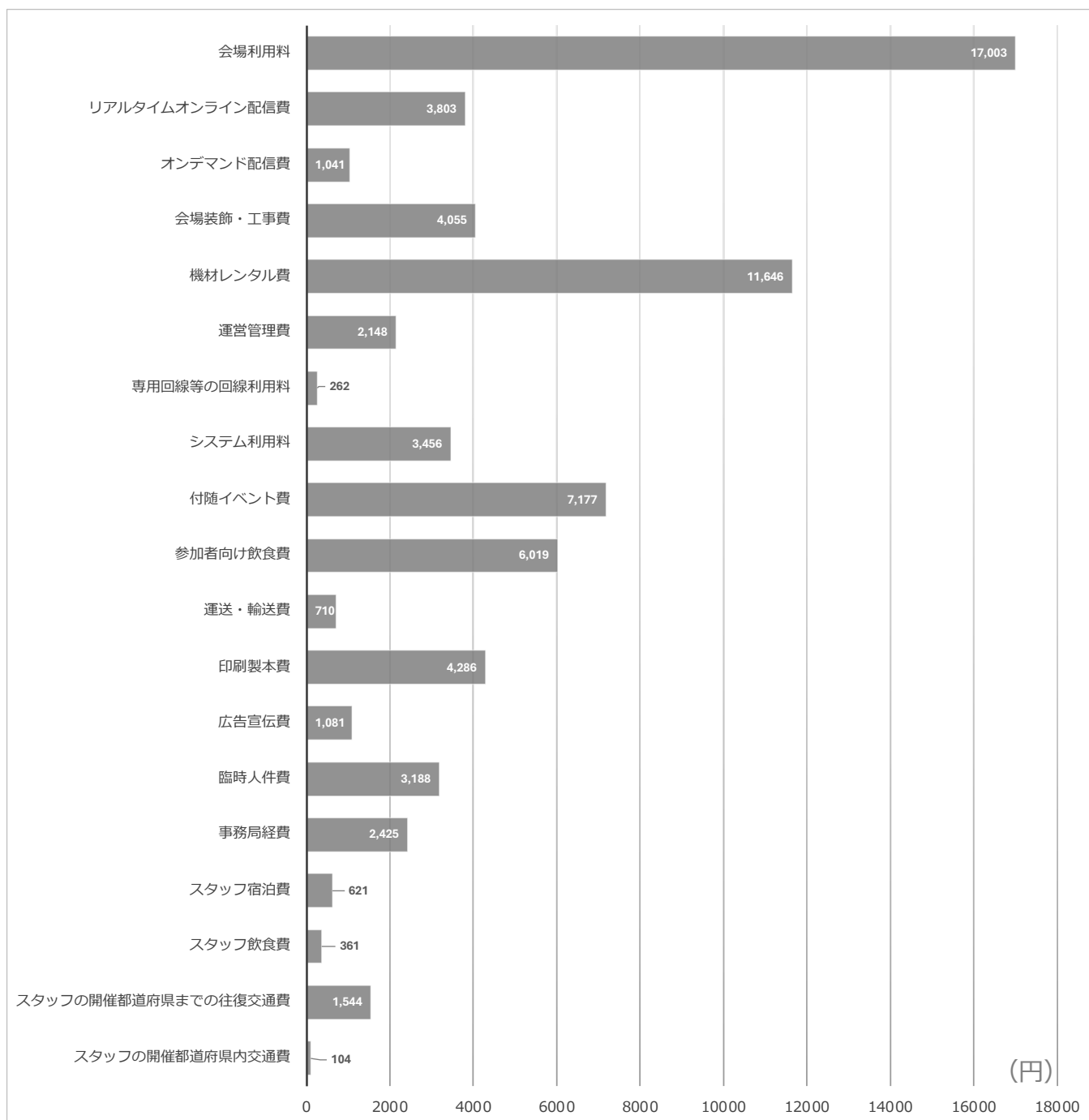
図 参加者1人当たり主催者消費額

今回調査（単位：円）

今回	医療 x 三大都市	医療 x 三大都市以外	医療以外 x 三大都市	医療以外 x 三大都市以外
会場利用料	17,003	6,105	16,812	10,955
リアルタイムオンライン配信費	3,803	756	6,918	679
オンデマンド配信費	1,041	30	205	9
会場装飾・工事費	4,055	1,712	4,313	2,749
機材レンタル費	11,646	5,843	8,910	4,406
運営管理費	2,148	2,214	5,398	3,708
専用回線等の回線利用料	262	149	854	343
システム利用料	3,456	2,778	6,271	3,743
付随イベント費	7,177	6,098	10,113	11,353
参加者向け飲食費	6,019	4,460	6,223	6,635
運送・輸送費	710	2,607	2,607	1,234
印刷製本費	4,286	3,014	3,863	5,004
広告宣伝費	1,081	1,221	1,349	1,195
臨時人件費	3,188	2,147	7,994	3,296
事務局経費	2,425	2,198	3,154	3,410
スタッフ宿泊費	621	694	810	1,026
スタッフ飲食費	361	237	403	598
スタッフの開催都道府県までの往復交通費	1,544	4,139	1,561	1,876
スタッフの開催都道府県内交通費	104	33	49	140
合計	70,928	46,435	87,807	62,359

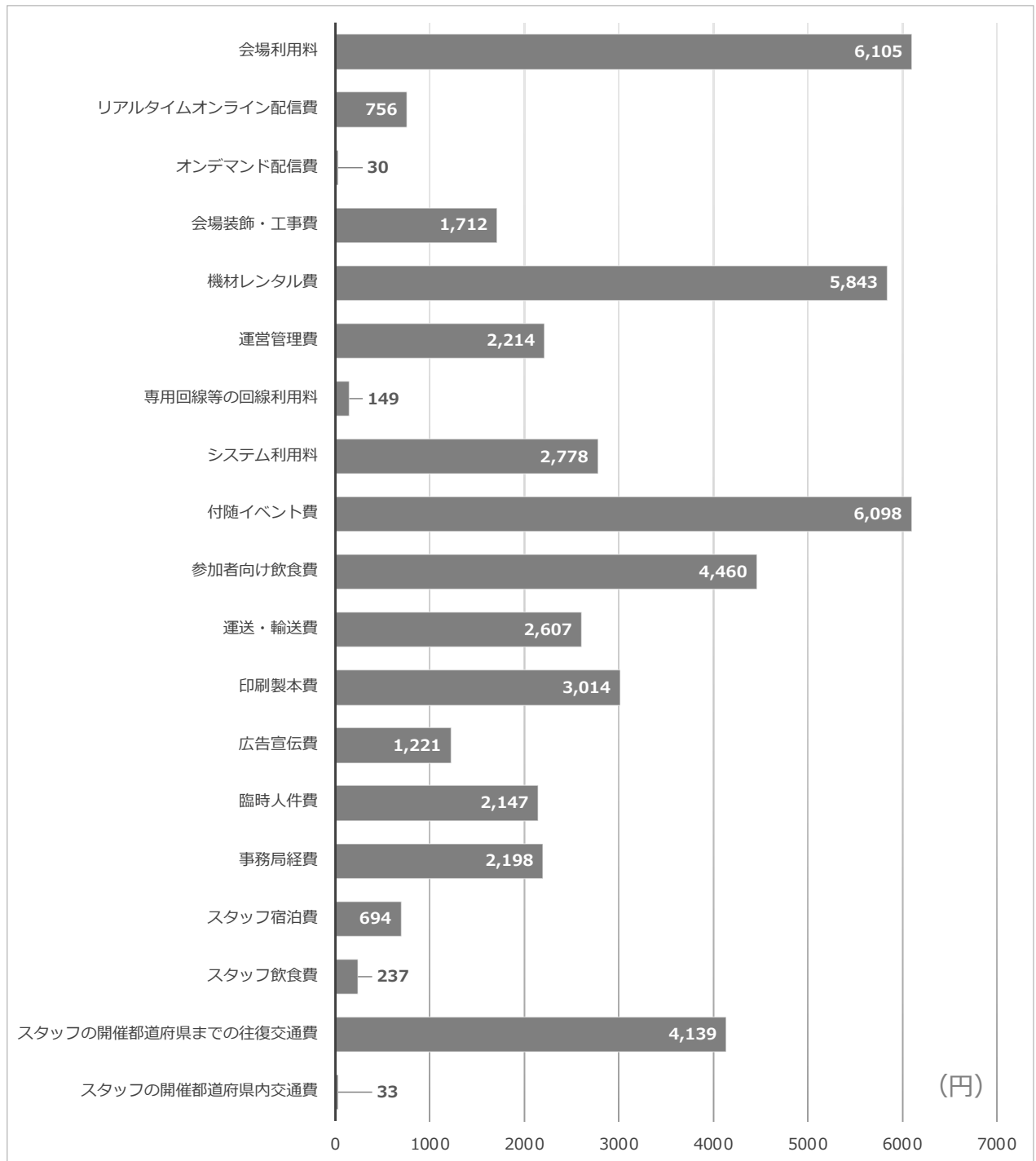
3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系 x 三大都市圏の参加者1人当たり主催者消費額（今回調査）



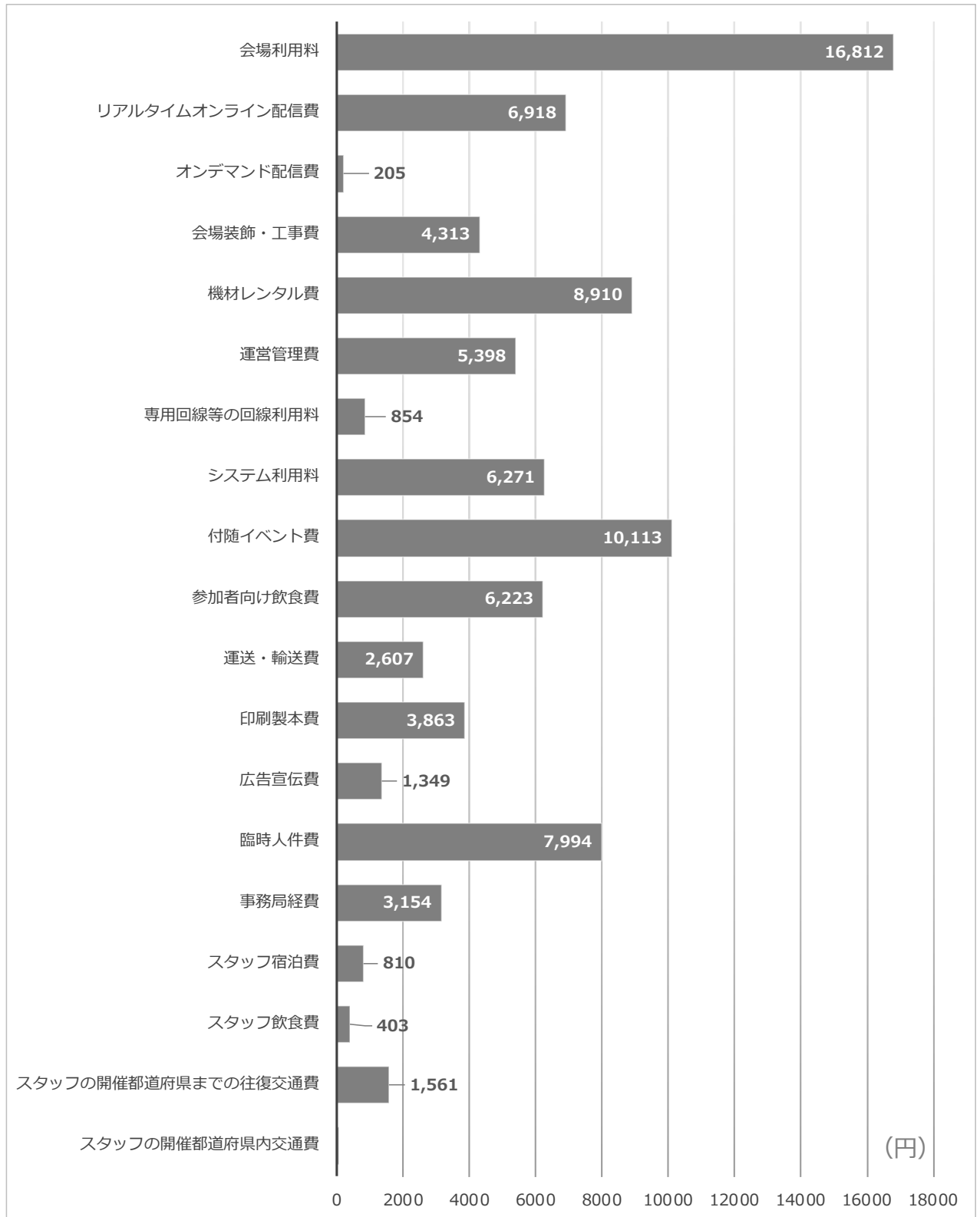
3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系 x 三大都市圏以外の参加者1人当たり主催者消費額（今回調査）



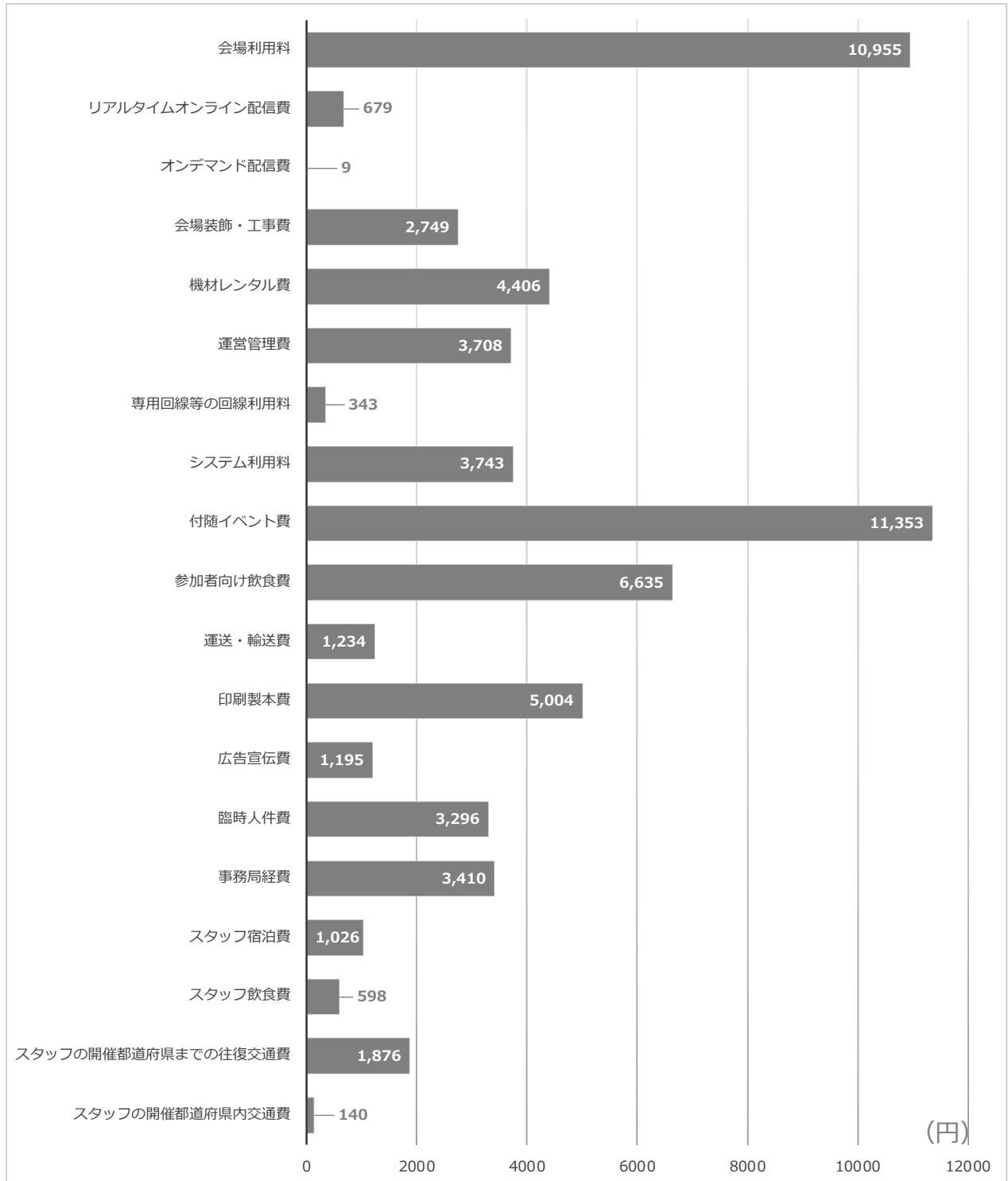
3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系以外 x 三大都市圏の参加者1人当たり主催者消費額（今回調査）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療以外 x 三大都市圏以外の参加者1人当たり主催者消費額（今回調査）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 参加者1人当たり主催者消費額

前回調査（平成28年度）（単位：円）

前回	医療 x 三大都市	医療 x 三大都市以外	医療以外 x 三大都市	医療以外 x 三大都市以外
1. 会場利用料	11,502	17,835	9,748	7,518
2. 会場装飾・工事費	3,945	7,688	8,259	4,001
3. 機材レンタル費	7,143	12,789	9,067	12,353
4. 運営管理費	2,178	19,670	1,369	9,313
5. パーティ・プレ/ポスターコンベンション	10,455	17,057	7,578	25,816
6. 飲食費（参加者向け）	2,108	3,890	2,489	6,269
7. 運送・輸送費	2,420	26,883	1,159	9,211
9. 印刷製本費	7,476	14,128	3,844	6,387
10. 広告宣伝費	1,704	1,835	1,959	1,068
11. 臨時人件費	5,966	13,028	4,881	7,681
12. 事務局経費	3,536	4,679	3,685	3,068
8. 宿泊費	6,486	7,033	1,099	5,531
13. 宿泊費（スタッフ分）	870	2,239	231	828
14. 飲食費（スタッフ分）	604	917	155	1,052
15. 開催地都道府県までの交通費	514	1,174	397	843
16. 開催地都道府県内の交通費	18	587	155	2,907
17. 土産・買物費	90	991	7	87
合計	67,014	152,422	56,084	103,931

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 参加者1人当たり主催者消費額

前回からの増減（単位：円）

差分（今回－前回）	医療 x 三大都市	医療 x 三大都市以外	医療以外 x 三大都市	医療以外 x 三大都市以外
1. 会場利用料	5,501	-11,730	7,064	3,437
2. 会場装飾・工事費	110	-5,976	-3,946	-1,253
3. 機材レンタル費	4,503	-6,946	-157	-7,947
4. 運営管理費	-30	-17,456	4,029	-5,604
5. パーティ・プレ/ポストコンベンション	-3,278	-10,958	2,534	-14,463
6. 飲食費（参加者向け）	3,911	570	3,734	367
7. 運送・輸送費	-1,710	-24,276	1,449	-7,977
9. 印刷製本費	-3,190	-11,114	19	-1,383
10. 広告宣伝費	-623	-614	-610	127
11. 臨時人件費	-2,777	-10,881	3,112	-4,385
12. 事務局経費	-1,111	-2,481	-531	342
8. 宿泊費				
13. 宿泊費（スタッフ分）	-249	-1,544	578	198
14. 飲食費（スタッフ分）	-243	-681	248	-454
15. 開催地都道府県までの交通費	1,030	2,964	1,164	1,033
16. 開催地都道府県内の交通費	86	-554	-106	-2,768
17. 土産・買物費				
合計	1,928	-101,677	18,581	-40,729

3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

(4) 出展者消費額

①参加者1人当たりの出展者消費額

医療系以外の展示会における参加者1人当たりにおける出展者消費額は55,383円であった。一方、医療系のそれは15,181円と約40,000円もの開きがあった。参加者1人当たりであるので、同じ出展規模でも参加者の人数により消費額は増減するため、必ずしも医療系以外の会議の方が総額でも出展消費額が大きいとは言えないが、本調査における項目別では、特に出展料・ブース利用料が医療系9,754円であるのに対し、医療系以外が18,799円と一番差が大きく出た。その他では運送・輸送費、印刷製本費、スタッフの開催都道府県までの交通費といった項目で医療系以外の金額が大きい。医療系以外の会議で、展示会における資料が印刷製本され、運送されたケースが医療系よりも多かったものと推測される。

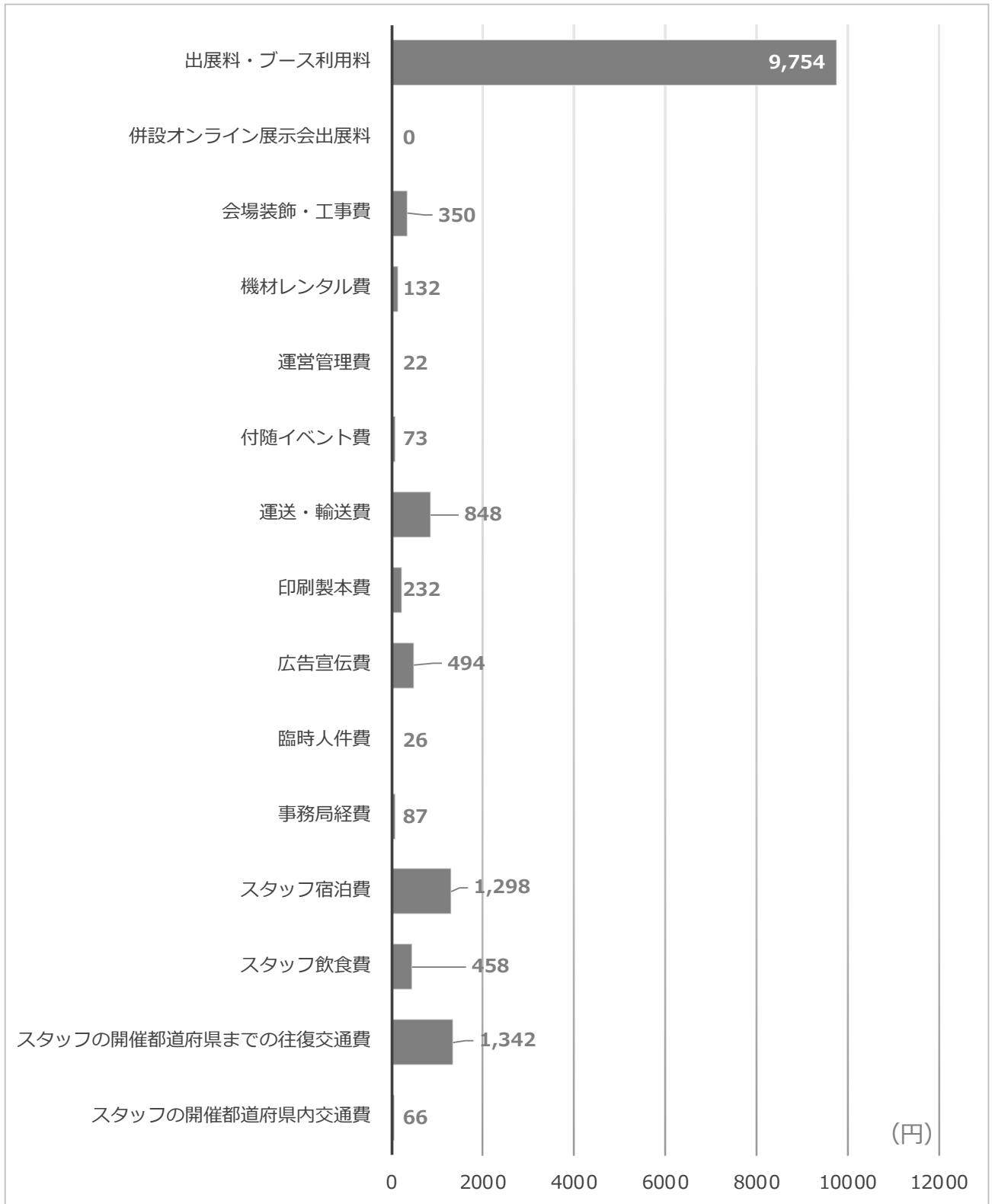
図 参加者1人当たり出展者消費額

今回調査（単位：円）

	医療	医療以外
出展料・ブース利用料	9,754	18,799
併設オンライン展示会出展料	0	0
会場装飾・工事費	350	1,146
機材レンタル費	132	700
運営管理費	22	105
付随イベント費	73	1,057
運送・輸送費	848	7,113
印刷製本費	232	6,421
広告宣伝費	494	1,241
臨時人件費	26	3,379
事務局経費	87	648
スタッフ宿泊費	1,298	4,619
スタッフ飲食費	458	1,858
スタッフの開催都道府県までの往復交通費	1,342	7,896
スタッフの開催都道府県内交通費	66	402
合計	15,181	55,383

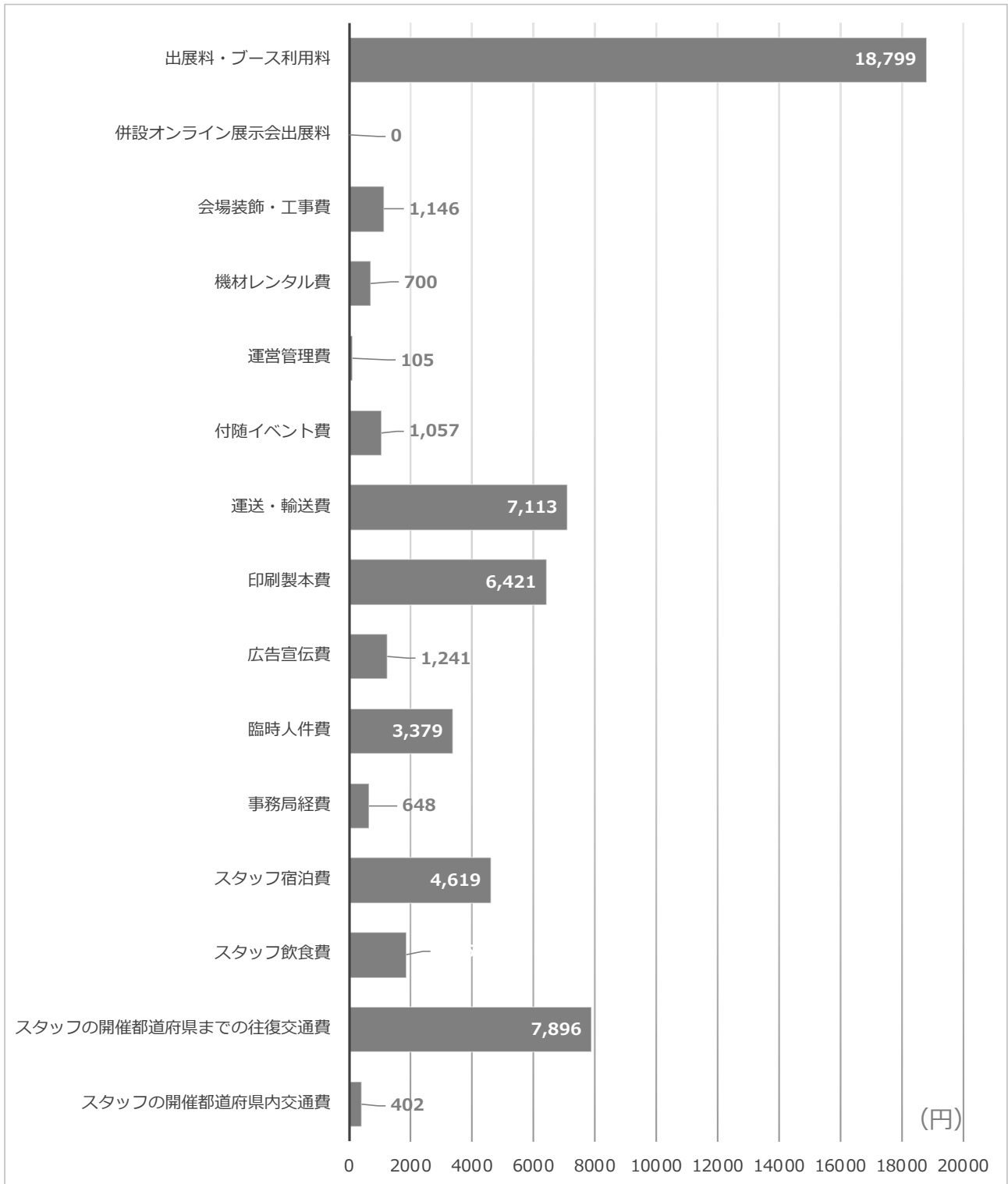
3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系会議の参加者1人当たり出展者消費額（今回調査）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

図 医療系以外の参加者1人当たり出展者消費額（今回調査）



3. 国際会議の参加者1人当たり総消費額の算出

②1日1㎡当たりの出展者消費額

1日1㎡の出展者消費額は医療系と医療系以外で算出した。医療系が128,063円。医療系以外が86,481円となり、医療系は医療系以外の約1.5倍の出展消費額となった。特に出展料・ブース利用料で2.8倍であった。一方で印刷製本費では医療系以外が医療系を約5倍ほど上回った。医療系のペーパーレス化が医療系以外よりも進んでいる可能性がある。

図 1日1㎡当たりの出展者消費額

今回調査 (円)

	医療	医療以外
出展料・ブース利用料	82,279	29,355
併設オンライン展示会出展料	0	0
会場装飾・工事費	2,957	1,789
機材レンタル費	1,110	1,094
運営管理費	189	164
付随イベント費	618	1,651
運送・輸送費	7,152	11,107
印刷製本費	1,957	10,027
広告宣伝費	4,166	1,937
臨時人件費	217	5,276
事務局経費	731	1,012
スタッフ宿泊費	10,947	7,213
スタッフ飲食費	3,864	2,901
スタッフの開催都道府県までの往復交通費	11,321	12,330
スタッフの開催都道府県内交通費	556	627
合計	128,063	86,481

4. 参加者アンケートからの考察

(1) 参加者属性についての調査

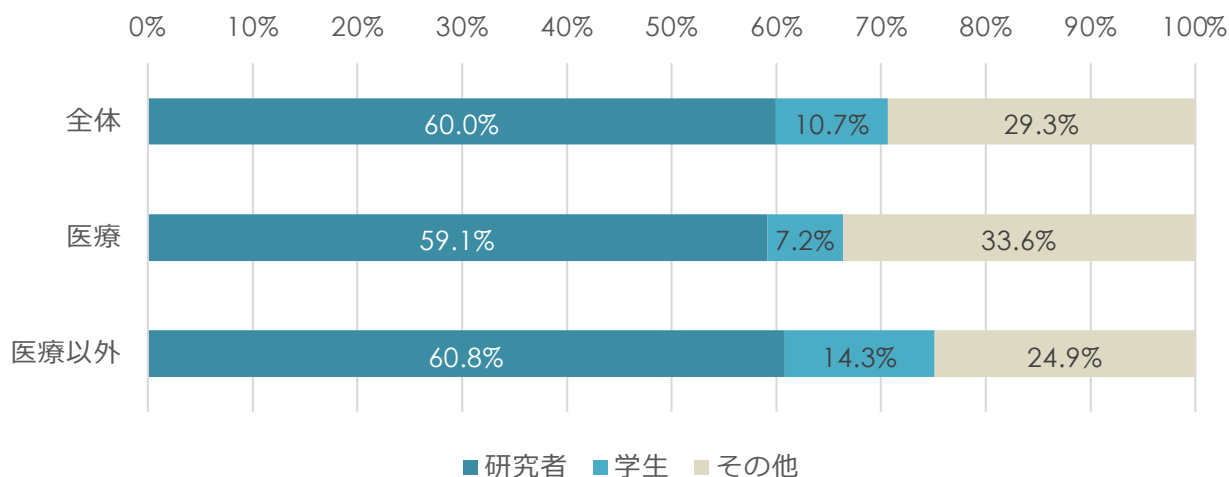
①職業

国内に居住する国際会議参加者の職業については60.0%が研究者、10.7%が学生となっており、医療以外をテーマとする会議については若干学生の割合が高くなっているが、その比率は概ね変わらない。

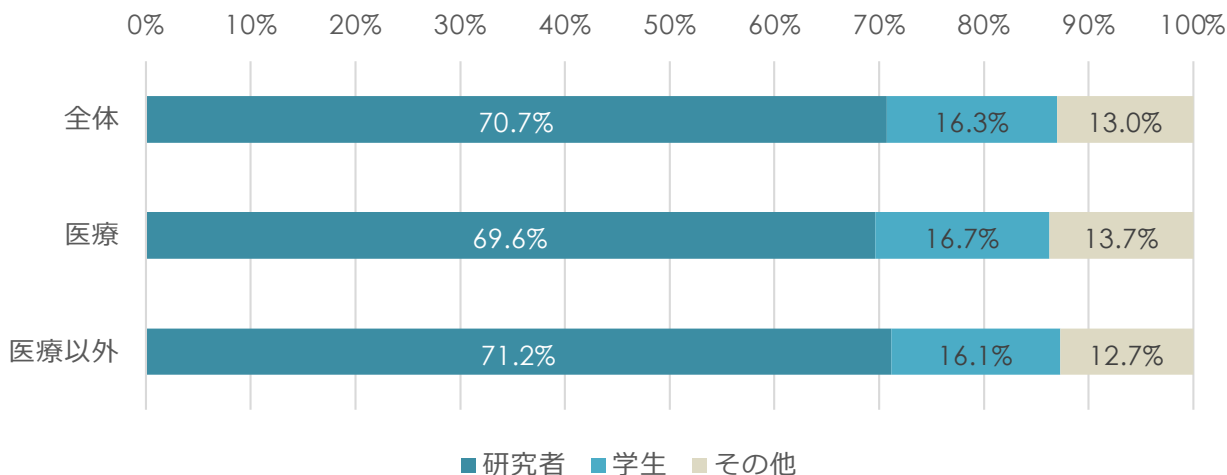
一方、海外に居住する国際会議参加者については、70.7%が研究者となっており、国内居住者に比べてその比率が10ポイント程度高くなっている。学生の割合も16.3%で国内居住者に比べて高い割合となっており、その他の割合は国内居住者に比べて低くなっている。

国内からの参加者については企業等からの参加者も多い一方で、海外からの参加者は何らかの形で研究を行っている、研究者や学生の割合が相対的に高くなっていると推測される。

職業：国内居住者



職業：海外居住者



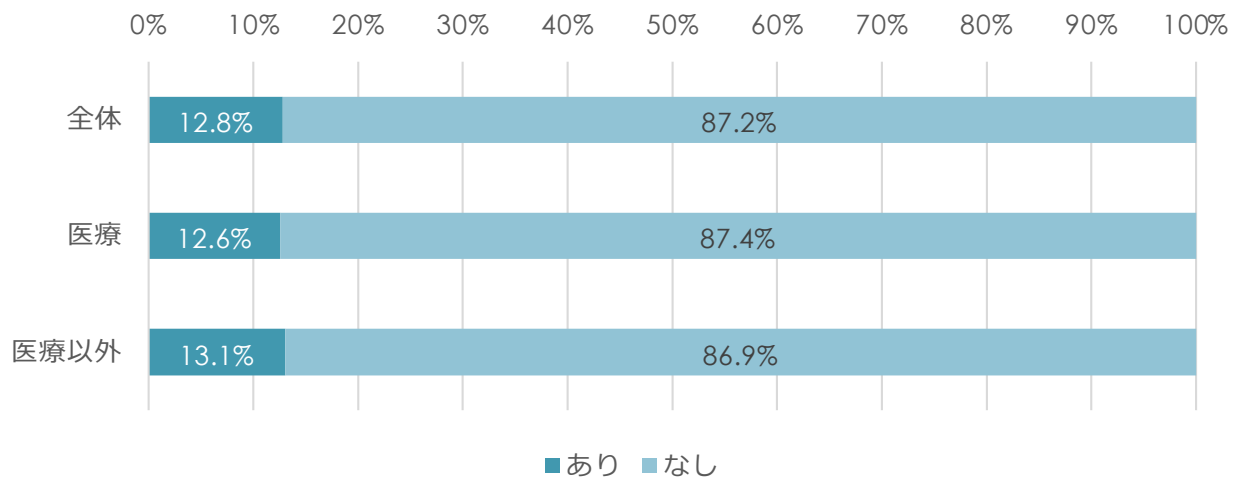
4. 参加者アンケートからの考察

②同伴者の有無

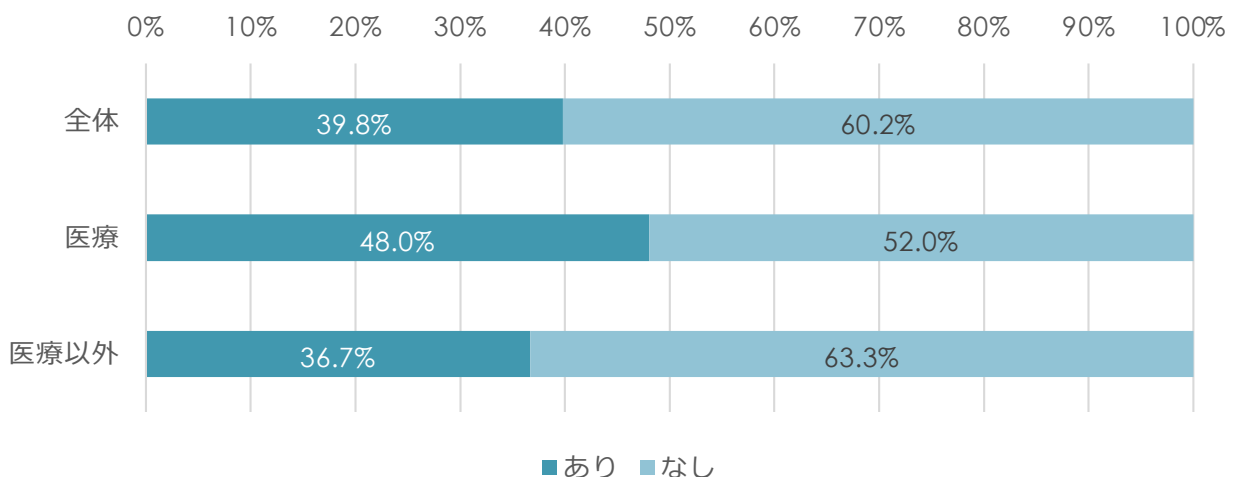
国内居住者が国際会議に同伴者とともに参加している割合は12.8%であるのに対し、海外居住者の同割合は39.8%と高くなっている。特に、医療をテーマとする国際会議の海外からの参加者はその約半数にあたる48.0%が同伴者とともに参加している。

海外からの参加者はその家族やパートナー等を、国際会議に同伴させることが一般的であり、同伴者の滞在コンテンツや同伴者を対象としたプログラム等の重要性が改めて確認できる。

同伴者の有無：国内居住者



同伴者の有無：海外居住者



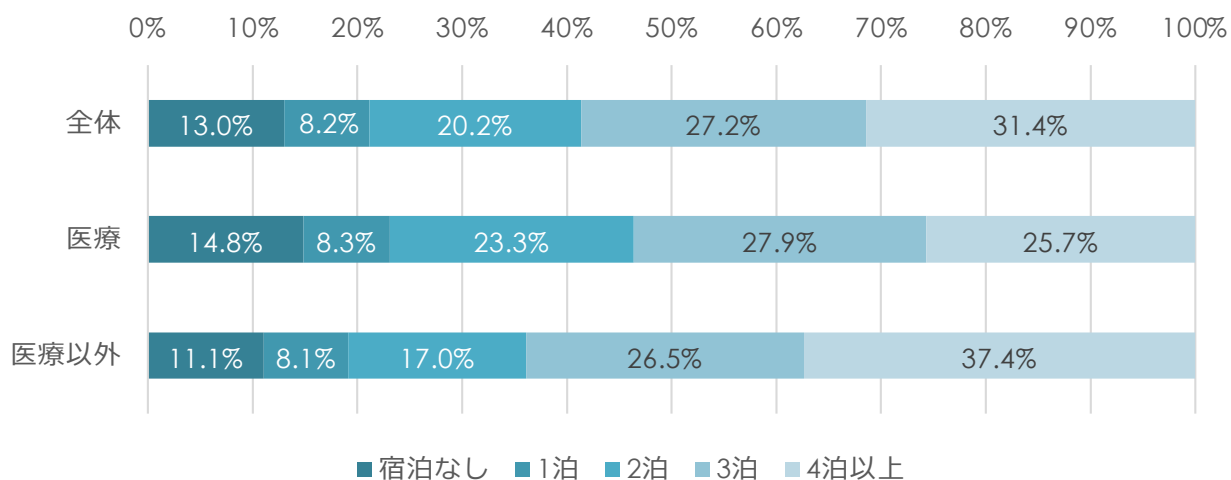
4. 参加者アンケートからの考察

(2) 国際会議参加に伴う宿泊数

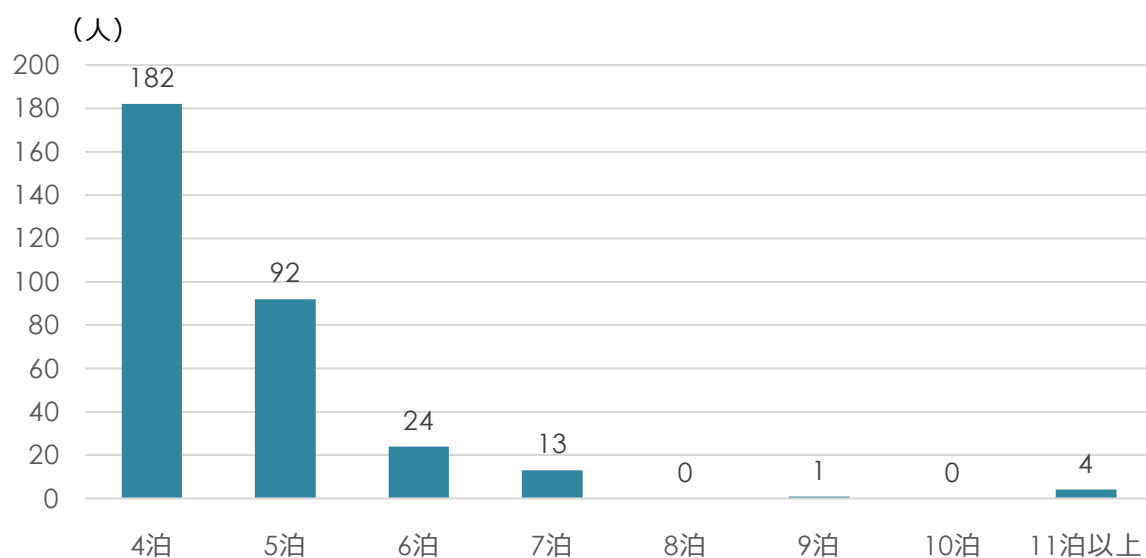
国際会議参加に伴う宿泊数は、国内居住者の13.0%が「宿泊なし」、8.2%が「1泊」、20.2%が「2泊」、27.2%が「3泊」、31.4%が「4泊以上」となっており、宿泊する割合は9割弱、3泊以上する割合は6割弱となっている。

4泊以上する参加者の内、その大半が4～5泊となっている。

宿泊数：国内居住者 x 分野別



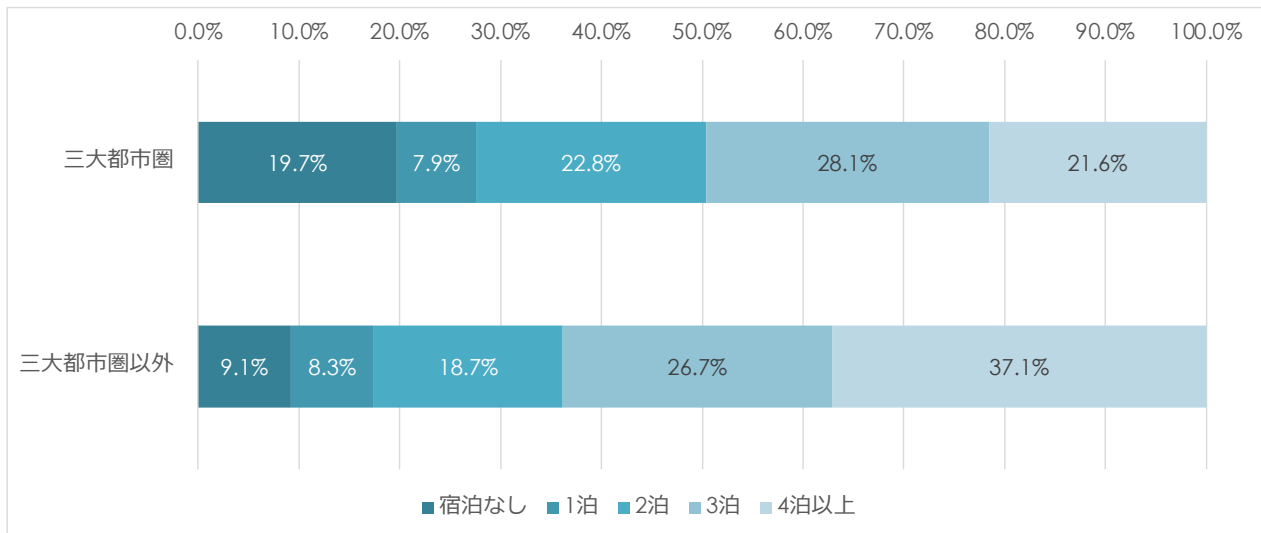
宿泊数（4泊以上の内訳）：国内居住者



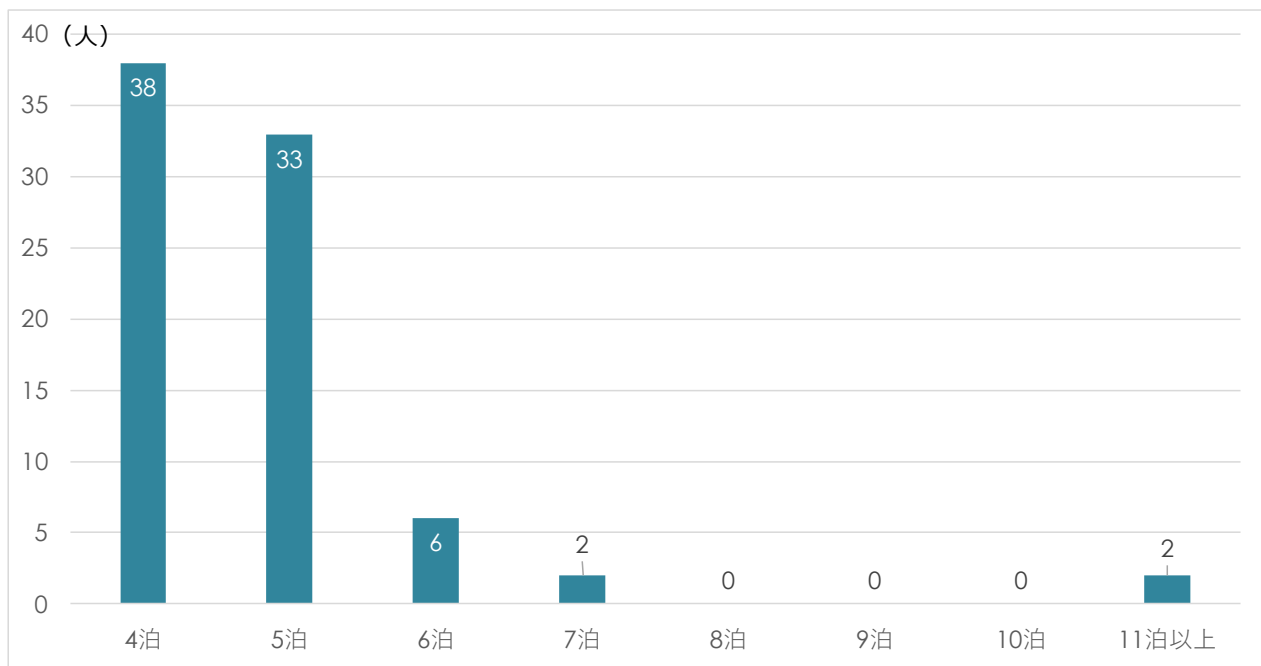
4. 参加者アンケートからの考察

また、三大都市圏、三大都市圏以外で宿泊数を分析すると、三大都市圏以外では約90%以上が宿泊しており、また4泊以上の宿泊が三大都市圏と比較し約1.7倍となっている。宿泊日数で比較すると開催地における顕著な差は見られず、4泊・5泊が全体の80%以上を占めている。

宿泊数：国内居住者 x 開催地別

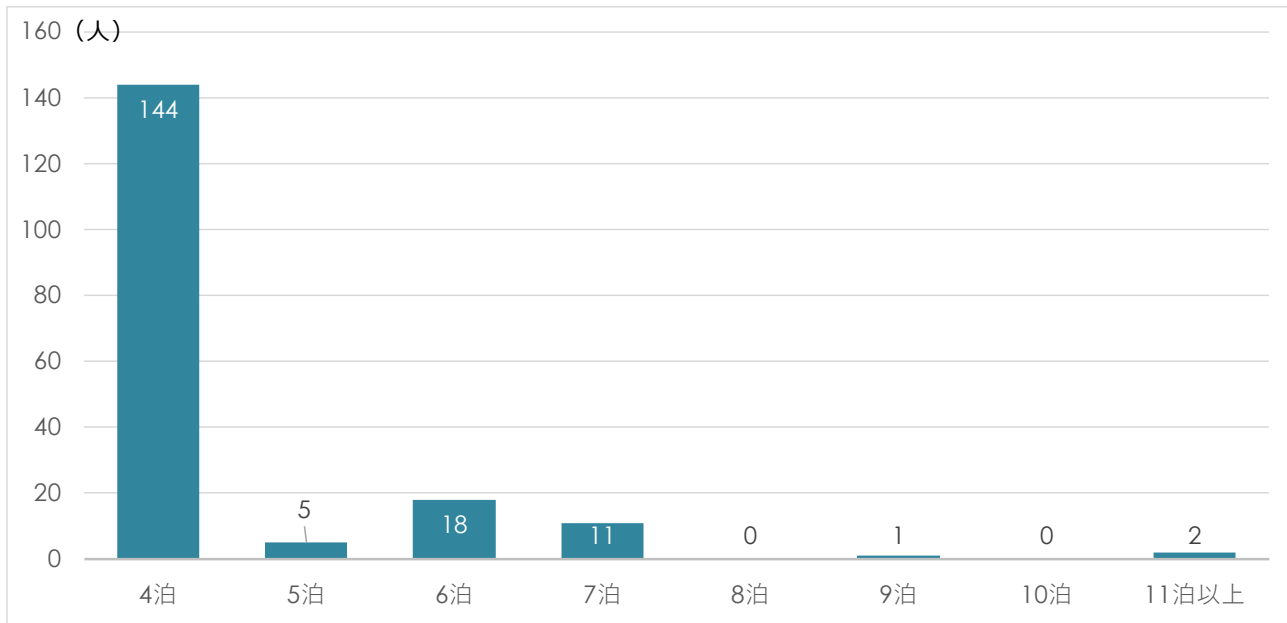


宿泊数（4泊以上の内訳）：国内居住者 x 三大都市圏



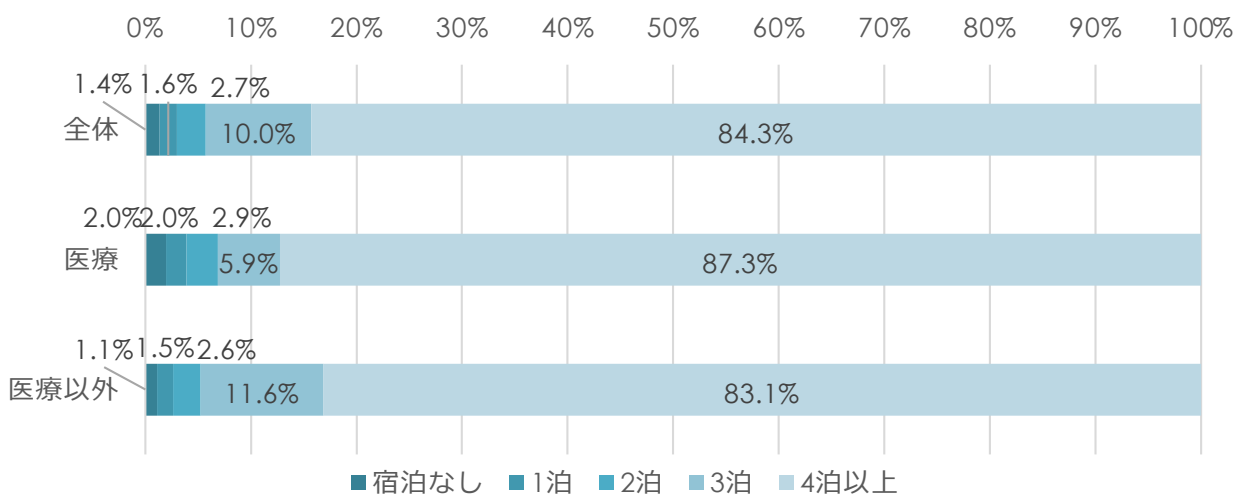
4. 参加者アンケートからの考察

宿泊数（4泊以上の内訳）：国内居住者 x 三大都市圏以外



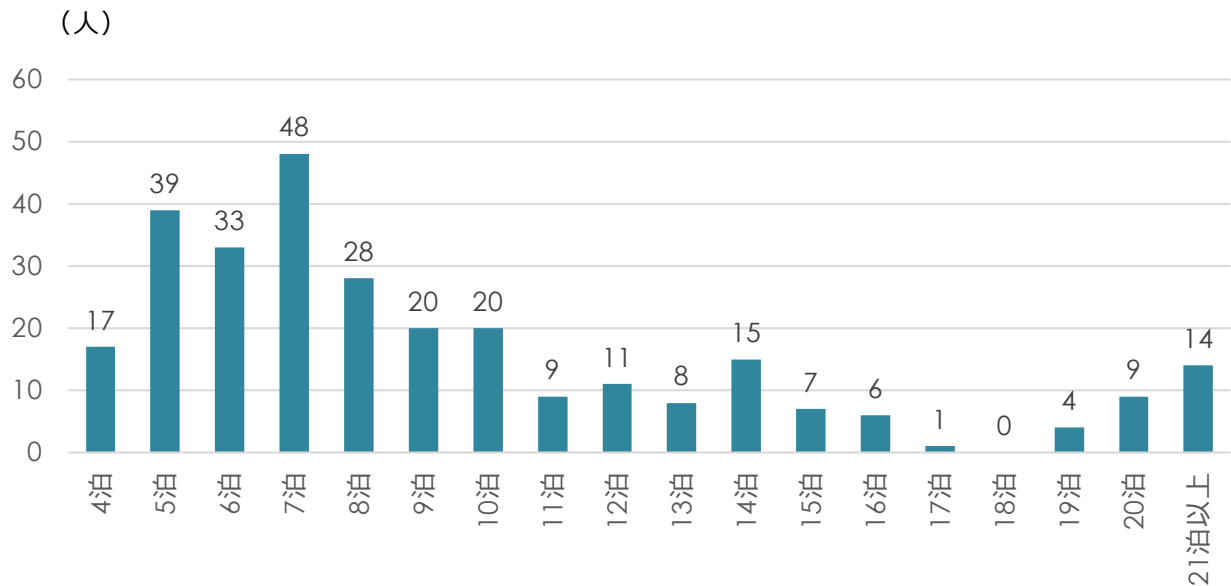
国際会議参加に伴う宿泊数は、海外の1.4%が「宿泊なし」、1.6%が「1泊」、2.7%が「2泊」、10.0%が「3泊」、84.3%が「4泊以上」となっている。4泊以上する参加者の内、もっとも出現頻度が高いのは「7泊」となっており海外居住者の国際会議参加者は5～10泊程度するのが一般的であると言える。長いケースでは15泊以上、あるいは20泊以上する参加者も一定の割合で存在する。

宿泊数：海外居住者 x 分野別



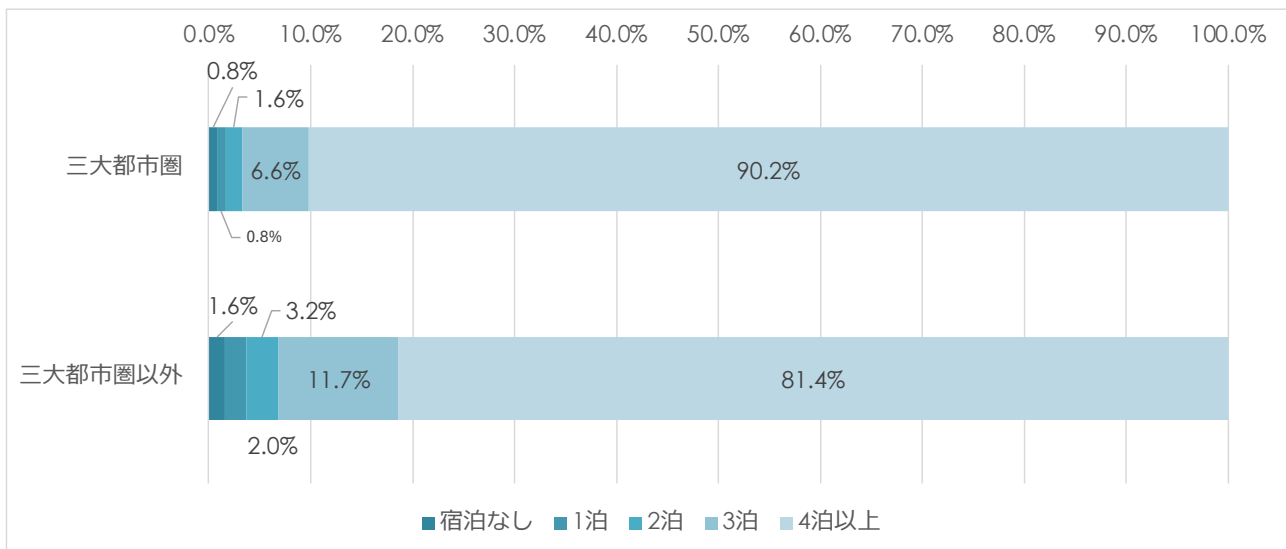
4. 参加者アンケートからの考察

宿泊数（4泊以上の内訳）：海外居住者



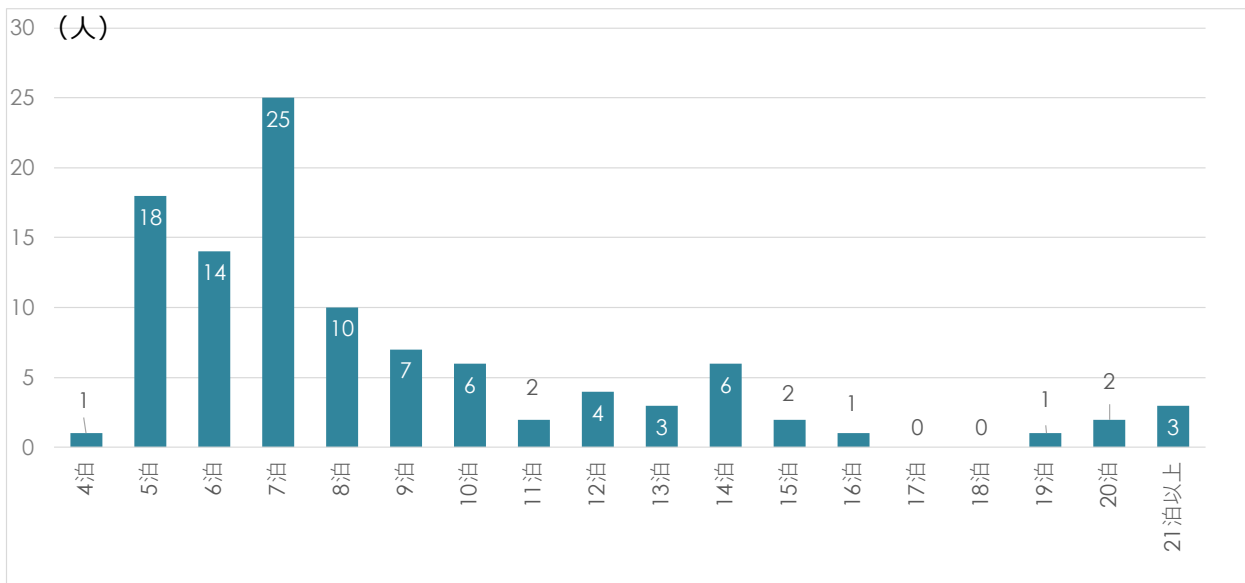
なお、開催地別に比較すると海外居住者の場合、国内居住者ほど宿泊有無や宿泊日数に顕著な差は見られない。

宿泊数：海外居住者 x 開催地別

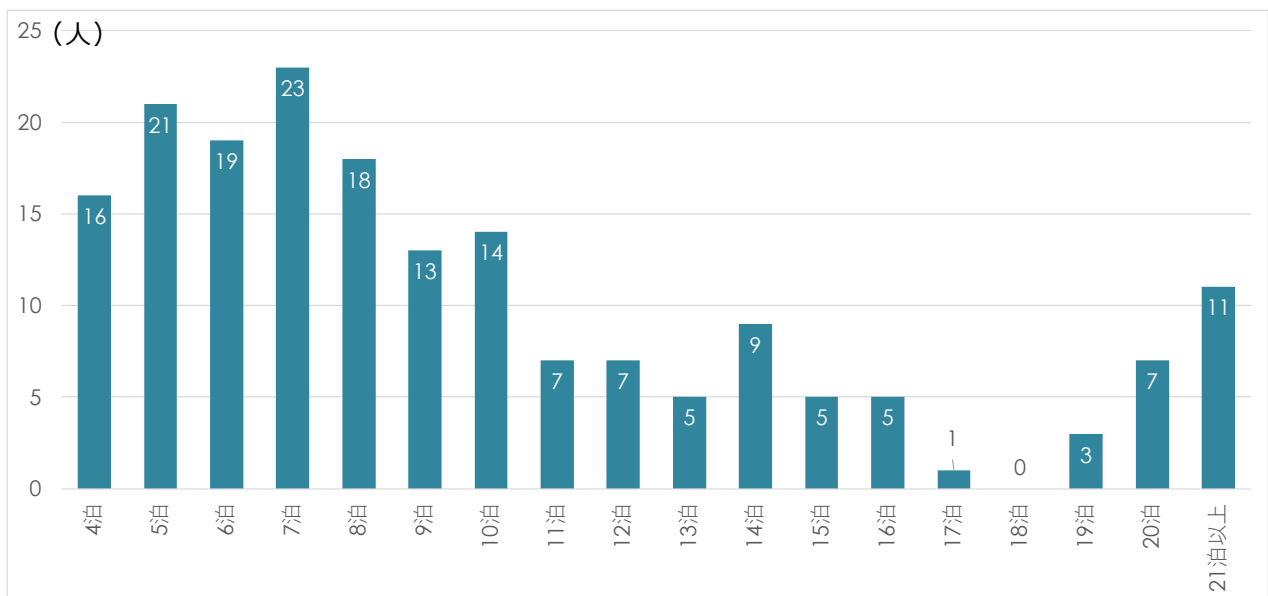


4. 参加者アンケートからの考察

宿泊数（4泊以上の内訳）：海外居住者 x 三大都市圏



宿泊数（4泊以上の内訳）：海外居住者 x 三大都市圏以外



このように国内居住者と海外居住者では、国際会議参加に伴う宿泊数には大きな差が存在し、海外からの参加者を多く集めることにより、開催地およびその周辺地域に大きな波及効果が生じることが期待される。

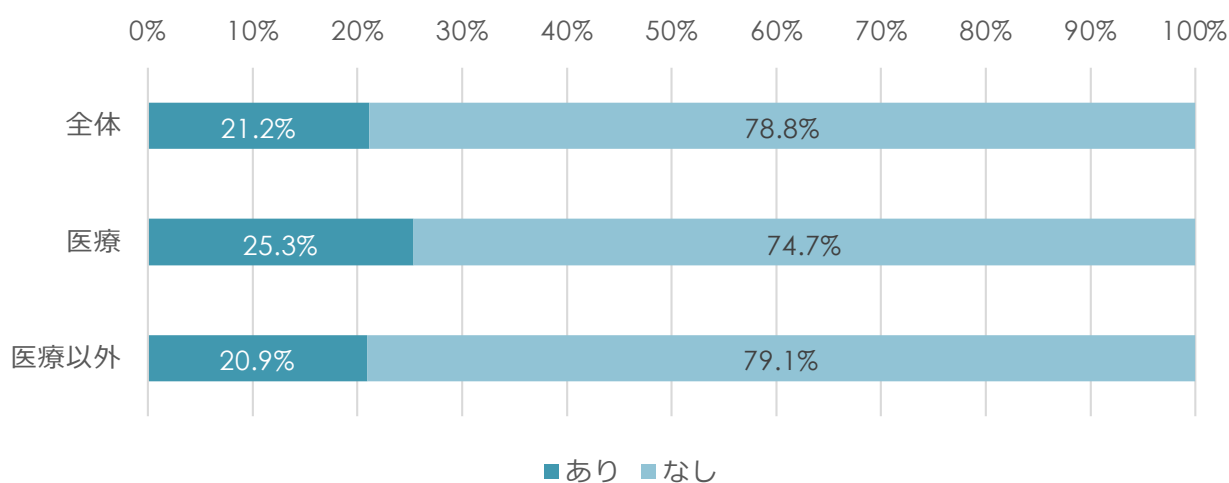
4. 参加者アンケートからの考察

(3) 国際会議の会期前後の観光旅行

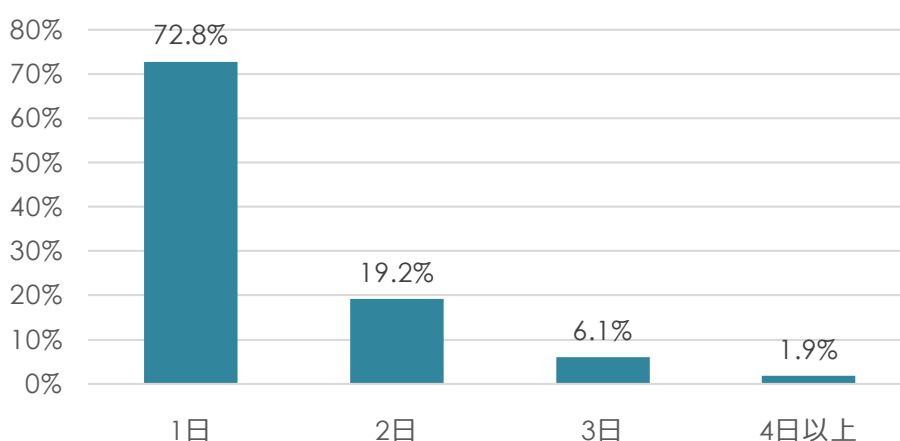
国際会議の会期前後に観光旅行を行う国内参加者の割合は**21.2%**となっている。同割合は医療をテーマとする会議では**25.3%**であるのに対し、医療以外をテーマとする会議では**20.9%**となっており、医療をテーマとする会議の方がその割合は若干高くなっている。

観光旅行を行った国内参加者が、観光旅行に費やした日数は1日が**72.8%**と圧倒的に高くなっており、2日「**19.2%**」、3日「**6.1%**」、「**4日以上**」**1.9%**となっている。

観光旅行の有無：国内居住者



観光旅行の日数：国内居住者



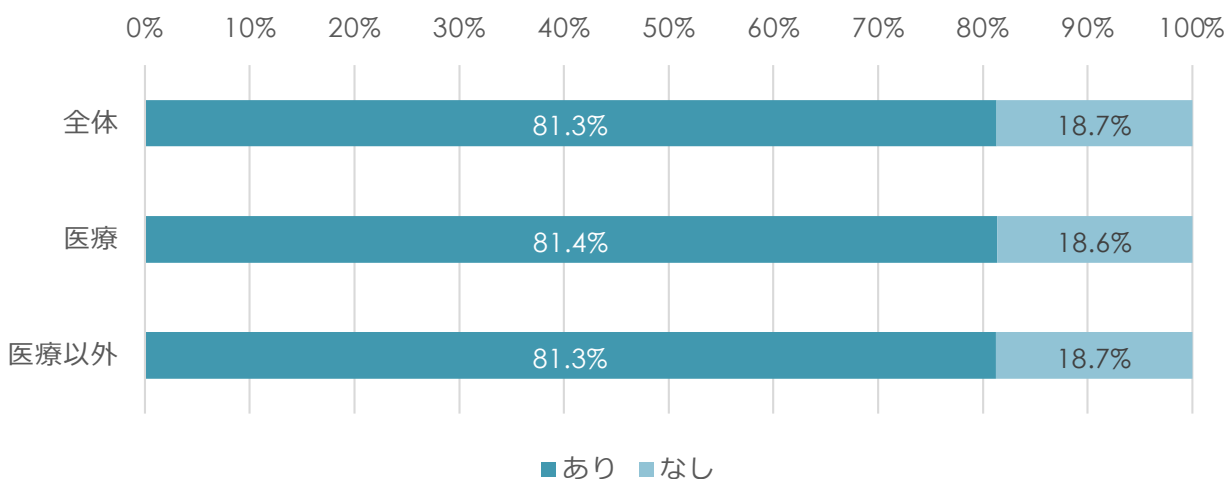
4. 参加者アンケートからの考察

国際会議の会期前後に観光旅行を行う海外参加者の割合は81.3%となっており、国内参加者の21.2%を大きく上回っている。

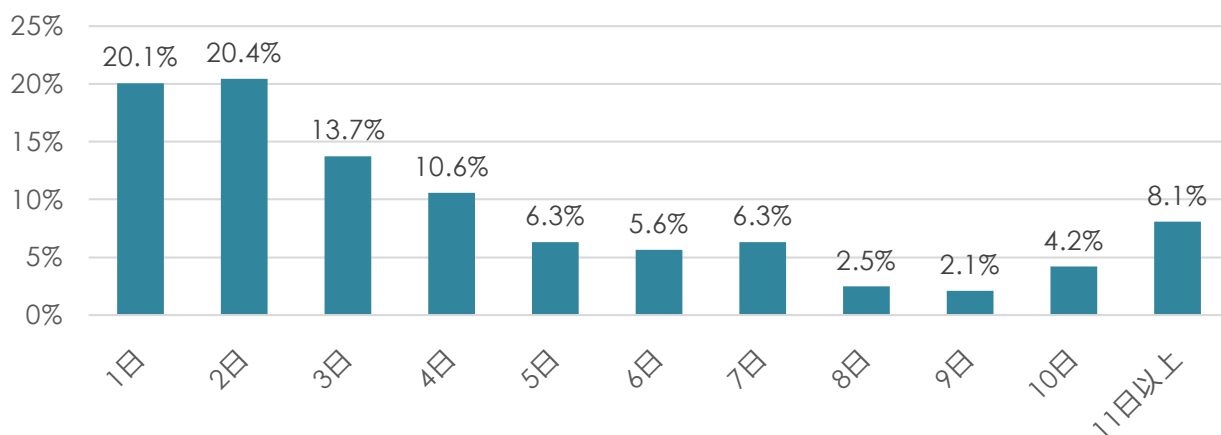
観光旅行を行った海外参加者が、観光旅行に費やした日数は「2日」が20.4%で最も多く、次いで「1日」20.4%、「3日」13.7%の順になっているが、4日以上を合計すると45.8%と約半数を占め、「11日以上」と回答した割合も8.1%と高くなっている。

このように海外参加者の大半が国際会議の会期前後に観光旅行を実施しており、かつその期間は長く、開催地およびその周辺に大きな効果をもたらしていると言える。今後、この観光旅行実施割合をさらに高め、日数を更に長期化することで国際会議の誘致開催の経済的な効果を今以上に高めることが期待される。

観光旅行の有無：海外居住者



観光旅行の日数：海外居住者



4. 参加者アンケートからの考察

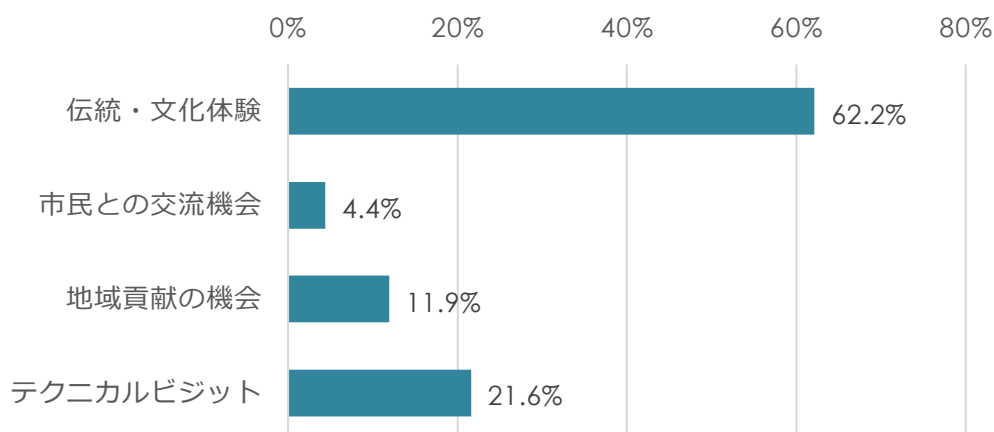
(4) 会議開催地に期待する体験コンテンツ

国内居住参加者に会議開催地に期待する体験コンテンツについて尋ねたところ、最も関心が高いのは「伝統・文化体験」62.2%、次いで「テクニカルビジット」21.6%の順となった。

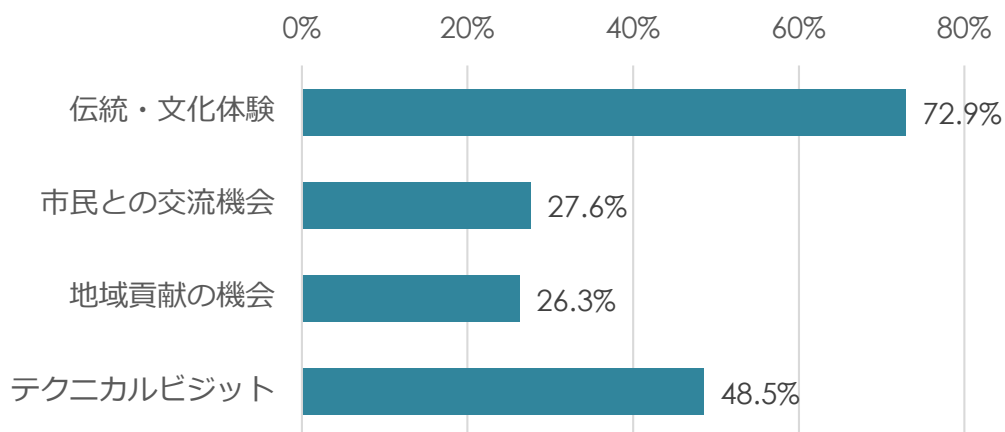
同様に海外居住参加者に会議開催地に期待する体験コンテンツについて尋ねたところ、最も関心が高いのは「伝統・文化体験」72.9%、次いで「テクニカルビジット」48.5%の順となった。

「伝統・文化体験」に関心が高い点は国内居住者と同様の傾向であったが、「テクニカルビジット」「市民との交流機会」「地域貢献の機会」は海外居住者の方が高い関心を有していることがわかる。特に「市民との交流機会」について関心を示した割合は国内居住者で4.4%であったのに対し、海外居住者は27.6%と顕著に高くなっており、海外居住者の市民との交流ニーズの高さがうかがえる。

会議開催地に期待する体験コンテンツ：国内居住者



会議開催地に期待する体験コンテンツ：海外居住者



4. 参加者アンケートからの考察

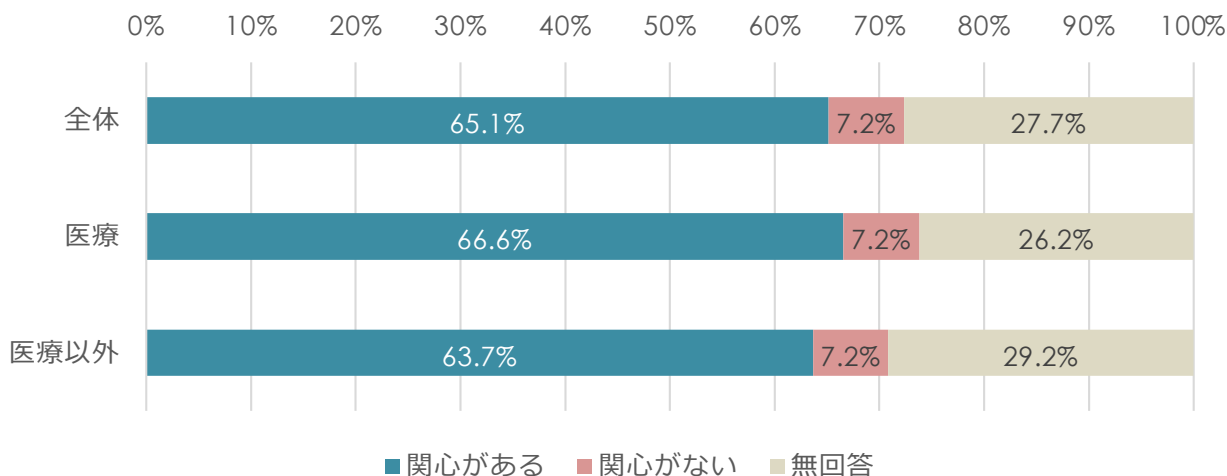
(5) 国際会議参加前後の開催国内での観光への関心

国際会議参加に参加する国内居住者の65.1%が会議開催前後に国内で観光することに「関心がある」と回答しており、「関心がない」と回答する割合が7.2%と低いことから、会議参加に伴う観光ニーズは非常に高いと考えられる。

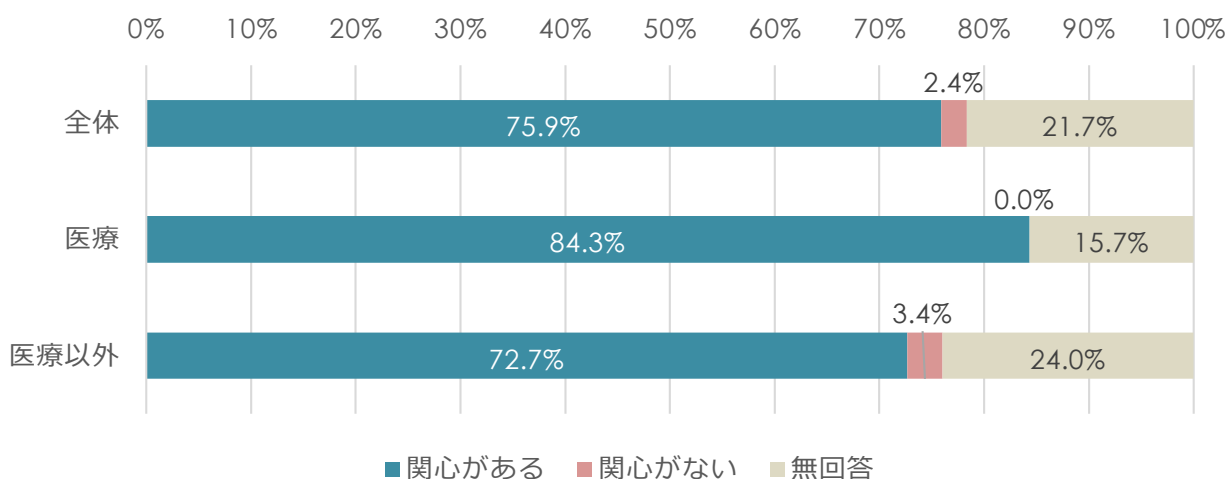
一方、(3)では国際会議の会期前後に観光旅行を行う国内参加者の割合は21.2%となっていたことから、そのニーズは必ずしも顕在化しているとは言えず、潜在的な観光ニーズを顕在化させることが今後の課題と考えられる。

同様に国際会議参加に参加する国内居住者の75.9%が会議開催前後に国内で観光することに「関心がある」と回答しており、「関心がない」と回答する割合は2.4%と極めて低く、会議参加に伴う観光ニーズは国内居住者以上に高いことが明らかとなった。

会議参加前後に開催国内で観光をすることへの関心：国内居住者



会議参加前後に開催国内で観光をすることへの関心：海外居住者



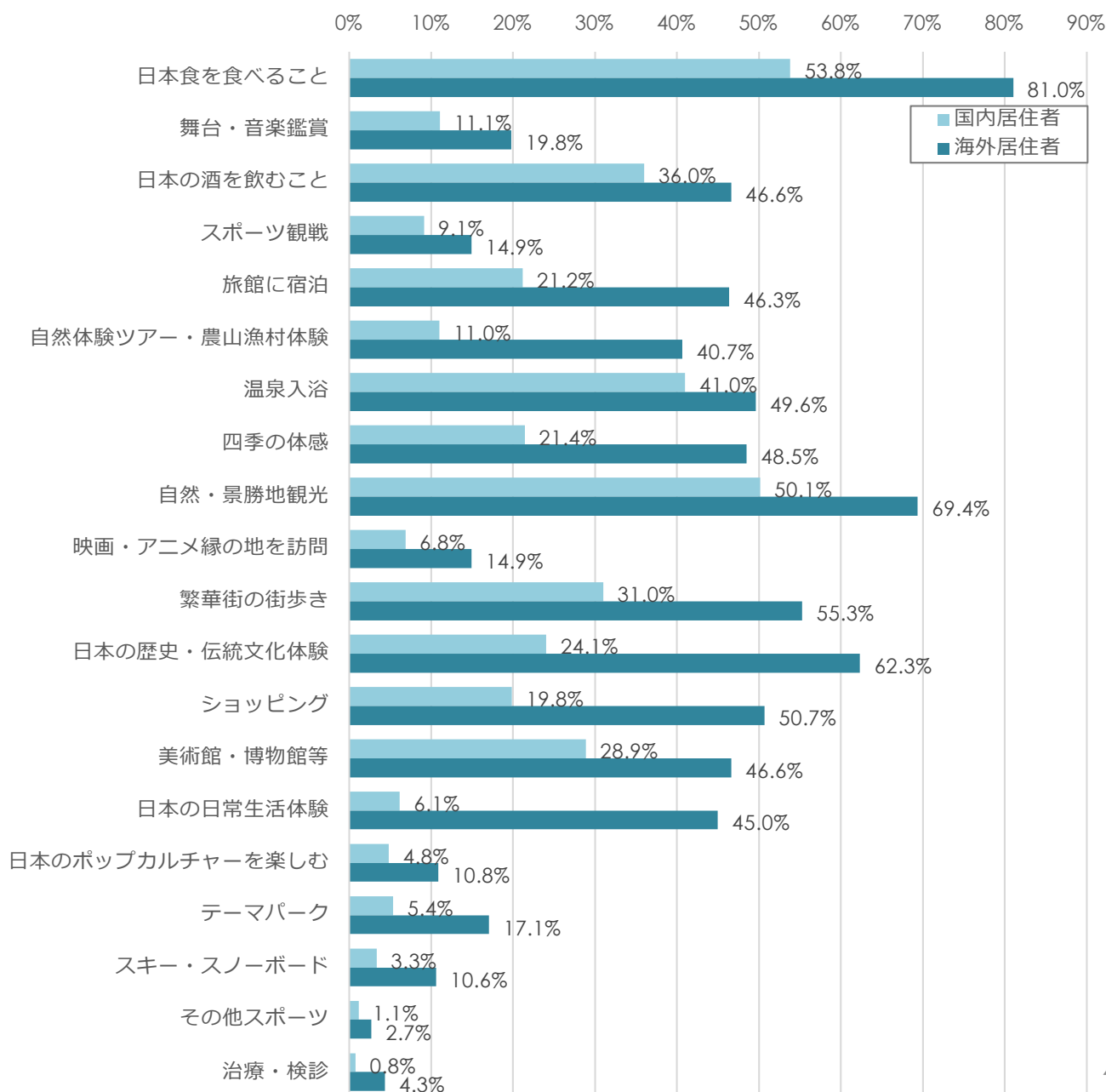
4. 参加者アンケートからの考察

上記設問で「関心がある」と回答した国内居住者、海外居住者それぞれに、関心のある観光コンテンツについて尋ねたところ、全体的に海外居住者の方がより多くのコンテンツに「関心がある」と回答する傾向となった。

「日本食を食べること」は国内・海外居住を問わず最も高い回答率となり、次いで「自然・景勝地観光」の順となった。

その他、海外居住者については「日本の歴史・伝統文化体験」62.3%、「繁華街の街歩き」55.3%、「ショッピング」50.7%が回答者の半数以上が「関心がある」という回答となった。また「四季の体感」48.5%、「日本の酒を飲むこと」46.6%、「美術館・博物館等」46.6%、「旅館に宿泊」46.3%、「日本の日常生活体験」45.0%等の日本の文化に関するコンテンツに高い関心が寄せられていることが明らかとなった。

関心のあるコンテンツ：国内居住者・海外居住者（「関心がある」と回答した者）



5. 主催者アンケートからの考察

(1) オンライン配信についての調査

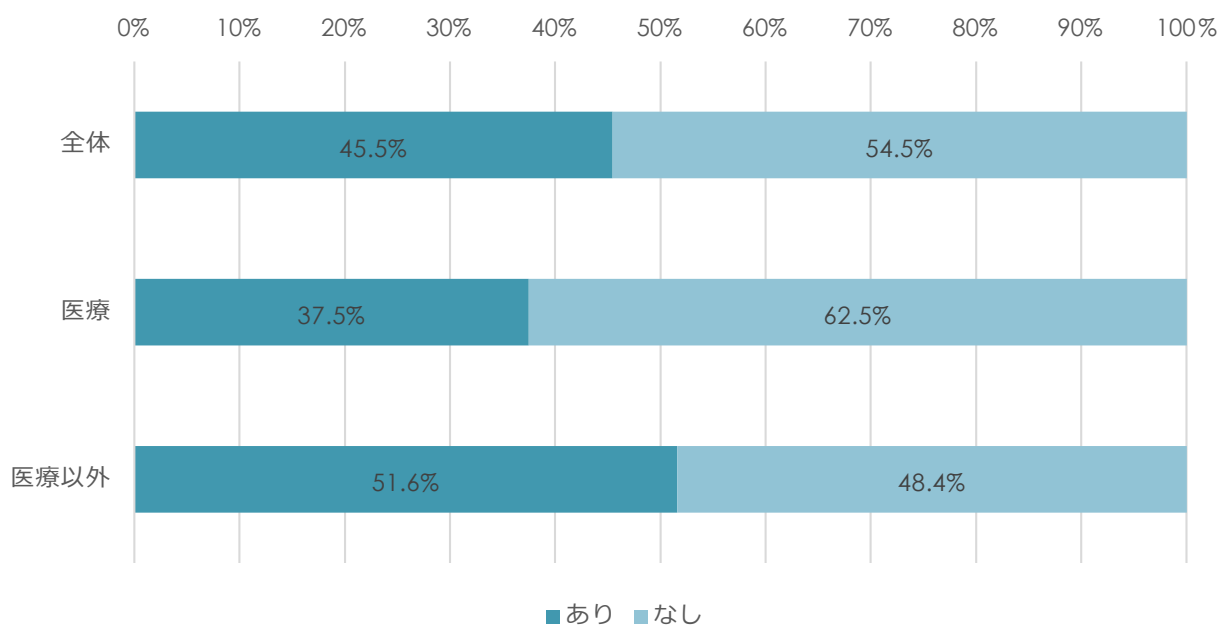
MICEの開催形態の多様化などの環境変化を踏まえ、会議のオンライン配信について費用等を調査し、今後のMICE簡易測定モデルに反映させることとした。

①リアルタイムオンライン配信とオンデマンドオンライン配信

(ア) リアルタイムオンライン配信の有無

配信ありが45.5%、配信なしが54.5%と、配信なしがやや上回ったが、半数近くがリアルタイムで配信を実施していることがわかった。また、医療系では配信ありが27.5%、配信なしが62.5%となり、配信の割合は平均より低くなった。医療系以外の会議では配信ありが51.6%、配信なしが48.4%とわずかながら配信ありが半数を上回った。

リアルタイムオンライン配信の有無

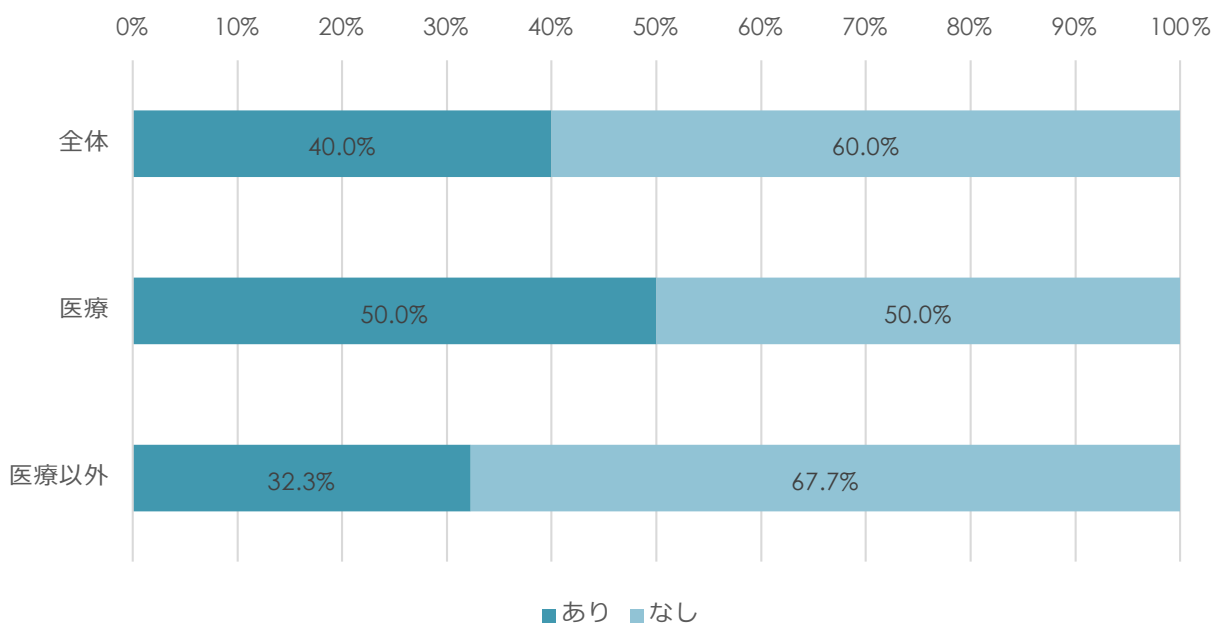


5. 主催者アンケートからの考察

(イ) オンデマンド配信の有無

全体で配信ありが40.0%、配信なしが60.0%という結果であった。医療系では配信あり、配信なしが50%ずつとなり、リアルタイム配信よりも利用の割合が高くなった。医療系以外の会議では配信ありが32.3%、配信なしが67.7%と、配信なしが大きく締め、リアルタイム配信とは異なる結果となった。

オンデマンド配信の有無

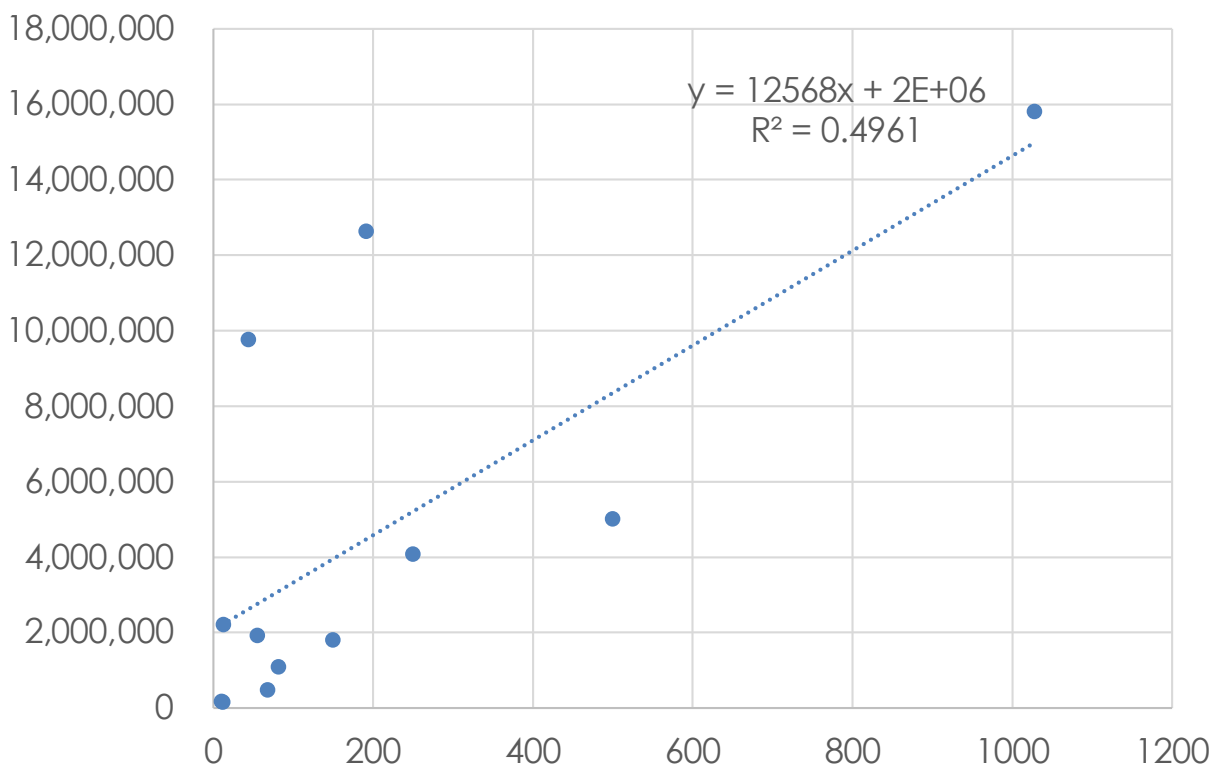


5. 主催者アンケートからの考察

②リアルタイムオンライン配信のコスト

リアルタイムオンライン配信のあった会議において、オンライン参加者は一番多い会議で1028人、一番少ない会議で10人であった。オンライン配信の参加者一人当たり消費額は最高で221,885円、最低6,859円と分布が大きい。

分野	リアルタイム配信有無	リアルタイムオンラインの参加人数	費用 (円)	1人当たり (円)
医療系	あり	1028	15,801,425	15,371
それ以外	あり	191	12,625,056	66,100
それ以外	あり	44	9,762,940	221,885
医療系	あり	500	5,000,000	10,000
医療系	あり	250	4,074,299	16,297
医療系	あり	13	2,200,000	169,231
それ以外	あり	55	1,904,119	34,620
それ以外	あり	150	1,800,000	12,000
それ以外	あり	82	1,075,000	13,110
医療系	あり	68	466,400	6,859
それ以外	あり	10	160,000	16,000
それ以外	あり	12	150,000	12,500



5. 主催者アンケートからの考察

③オンデマンド配信のコスト

オンデマンド配信のあった会議において、オンライン参加者は一番多い会議で3,618人、一番少ない会議で256人であった。オンライン配信の参加者一人当たり消費額は最高で3,317円、最低615円、平均値は1,972円であった。

分野	オンデマンド配信の有無	参加者総数（人）	費用（円）	1人当たり（円）	
医療系	あり	3,618	12,000,000	3,317	
医療系	あり	2150	5,882,800	2,736	
医療系	あり	1000	2,000,000	2,000	
それ以外	あり	1300	800,000	615	
それ以外	あり	256	304,800	1,191	
				1,972	平均値

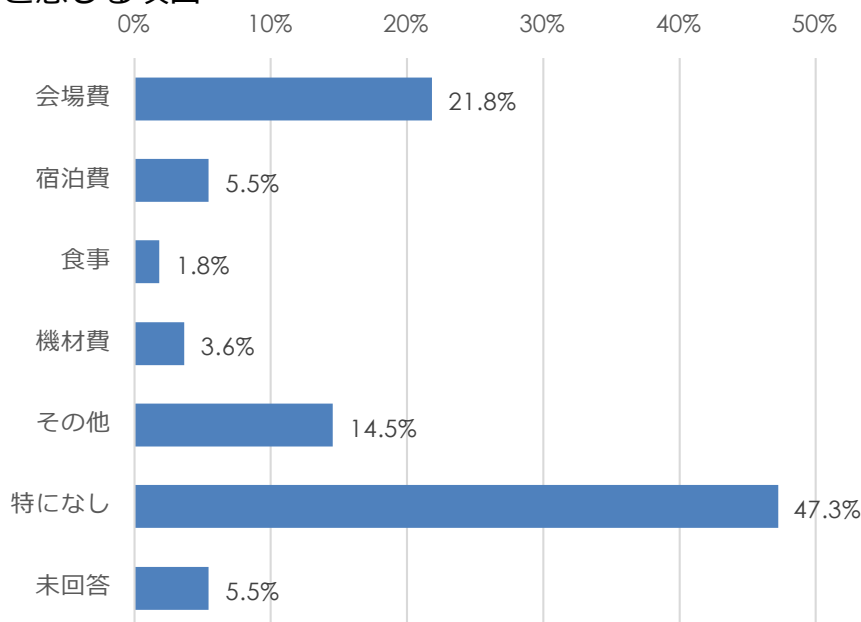
5. 主催者アンケートからの考察

(2) 他国との比較における日本開催の課題について

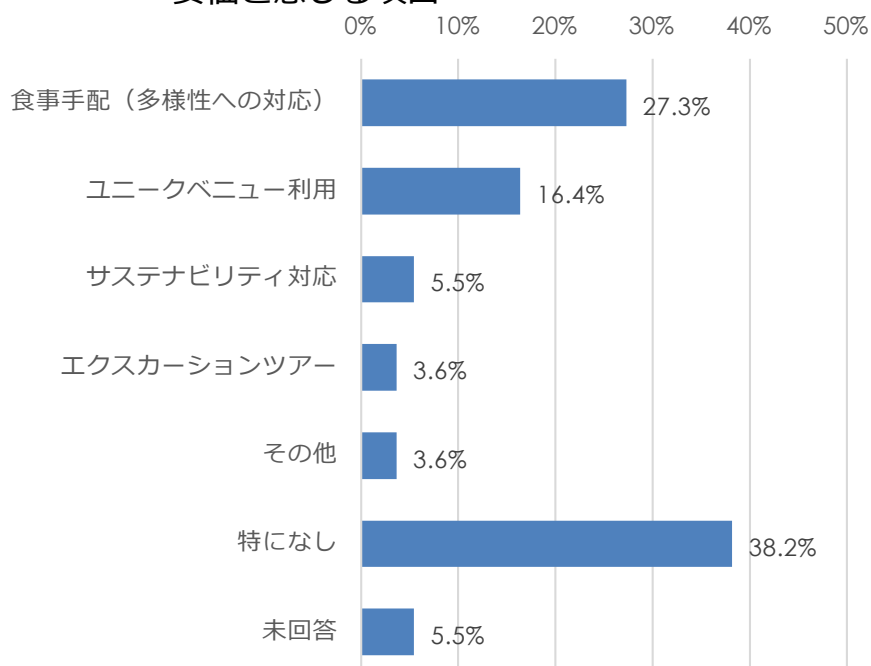
①開催コスト

日本での開催コストが主催者にどう受け止められているかを調査した。高いと感じる項目では、「特になし」が47.3%と最も多く、半数近くが高いと感じる項目はないと答えた。高いと感じる項目で最も多かったのは、「会場費」の21.8%であった。安価と感じる項目については、こちらも「特になし」が38.2%で最も多かった。次に多かったのは「食事」の25.5%、次いで「宿泊費」の14.5%であった。どちらの項目も高いと感じる項目では、それぞれ5.5%、1.8%であったため、価格面での滞在のしやすさが日本滞在のメリットとなっている。

高いと感じる項目



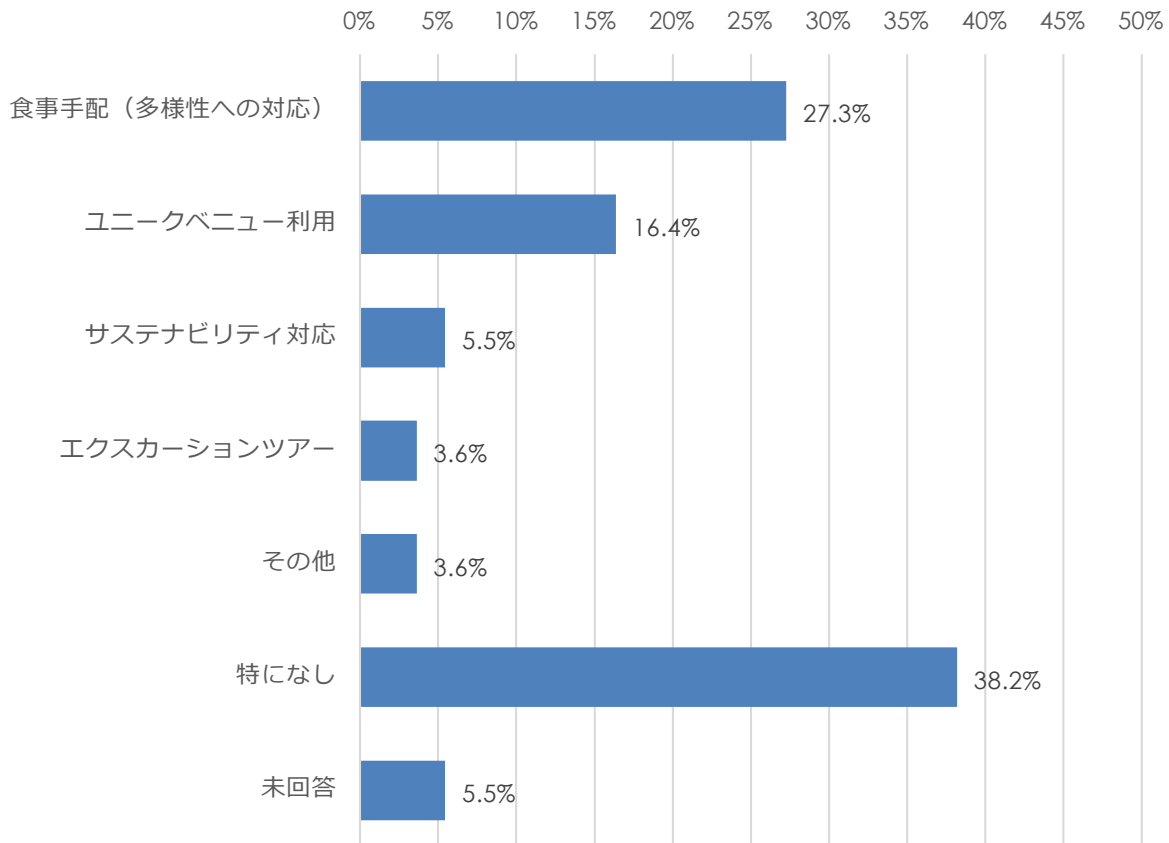
安価と感じる項目



5. 主催者アンケートからの考察

②手配・実施面の課題

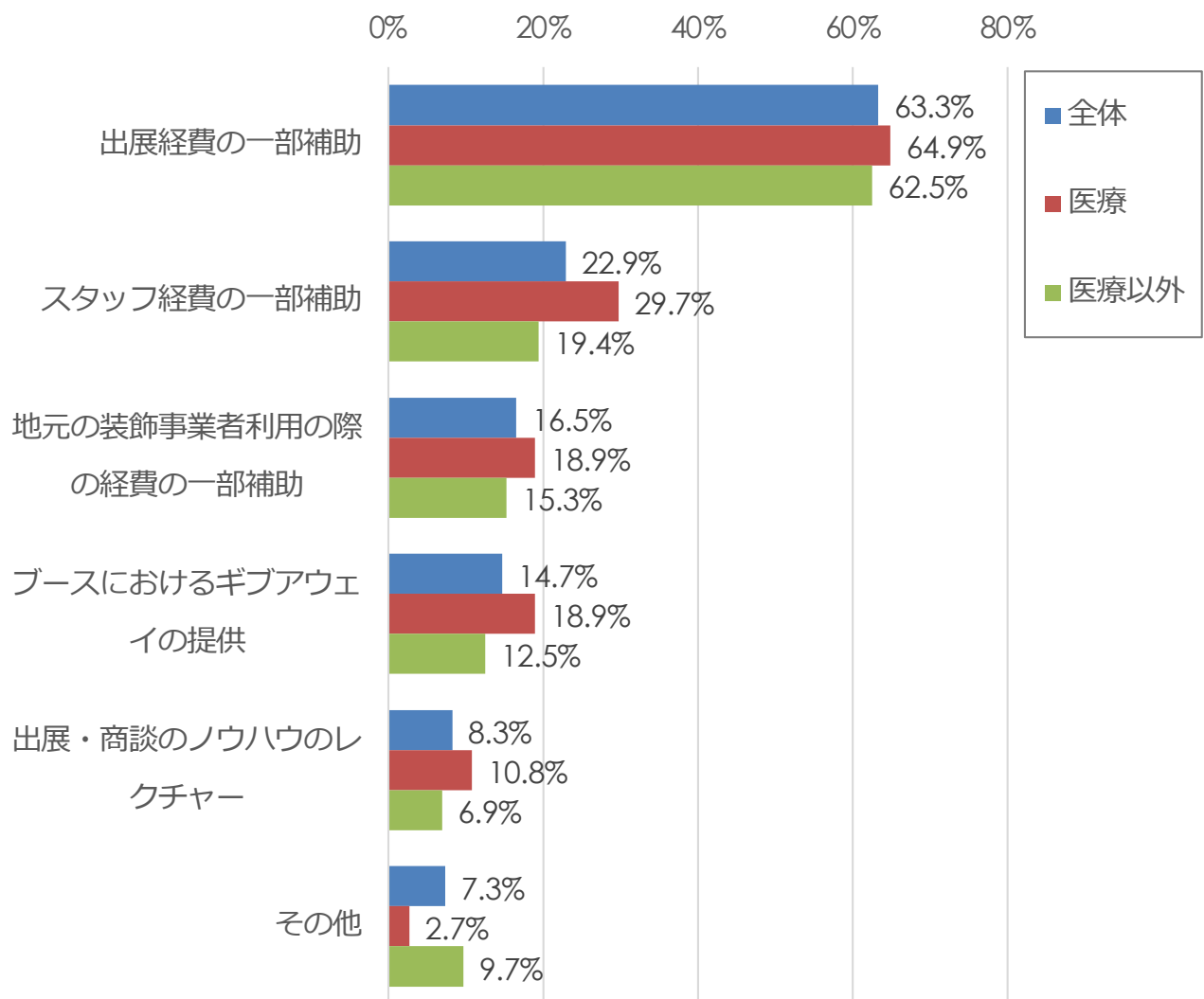
他国と比較し、手配や実施が難しいと感じる項目について調査した。最も多かったのは「特になし」の38.2%であったが、次に多かったのは「食事（多様性への対応）」の27.3%であった。また、「ユニークベニューの利用」も16.4%と食事に次いで高い割合となった。食事手配も、ユニークベニュー利用も、MICEの案件に求められる特別で柔軟な対応について主催者が十分な満足感を得られていない状況があると思われる。



6. 出展者アンケートからの考察

(1) 地方公共団体、コンベンションビューローに望む支援策

本調査の機会に、今回の出展とは無関係に、地方公共団体、コンベンションビューロー等に対し、地元の展示会出展における支援策として望むものを調査した。医療系、医療系以外を問わず、「出展経費の一部補助」が圧倒的に多く、全体で63.3%（医療系64.9%、医療系以外62.5%）が選択した。以下は大きく下がって、「スタッフ経費の一部補助」の22.9%であったが、この項目では医療系が29.7%と医療系以外の19.4%を10.3ポイント上回って差が際立った。次いで「地元の装飾事業者利用の際の経費の一部補助」が16.5%と続いた。結果として上位3項目はすべて経費の一部補助であり、金銭的な支援を望む意向が強く反映された。また項目別では「その他」以外はすべての項目で医療系が医療系以外を上回り、医療系会議が支援をより必要としていることがうかがえる。



7. 有識者へのヒアリング

今回の調査結果を受け、今後MICE簡易測定モデルを改訂していく計画であるが、より実情に即した仕様を構築していくため、MICE業界のユーザーにヒアリングを行った。

【ヒアリング先】（順不同）

グローバルMICE都市	：3都市
上記以外の都市	：2都市
旅行会社	：1社
展示業界団体	：1団体

【主なヒアリング内容】

■現行のMICE簡易測定モデル利用に関する評価

①現行モデルの使用頻度と使用感

- ・コロナ禍で失われた経済波及効果を算出。コンベンションビューローの年間レポートのために、2024年以降の主要な国際会議の経済波及効果算出に使用。使用感としては簡単に算出ができるので使いやすい。国際会議の誘致段階で経済効果を示せることは、市や市民への誘致活動への理解促進につながると考えている。
- ・年5回程度利用。簡単に数字が算出されるため、利用しやすい。加えて観光庁作成のモデルであるため、信頼度が高い。実際の国際会議の経済波及効果測定に当モデルを使用している。エクセルではなく、オンライン上で必要なデータを入力すると算出できるようにすればより利用しやすくなる。
- ・利用頻度としては、2023年1年間で、M、I、C、E合わせて175件ほどの案件に使用した。また、プレスリリース、予算要求、ニュースレター、中期計画、補助金申請資料等に活用している。入力項目については、日本人の宿泊割合や海外居住者の日系/外資系エアラインの利用率を把握することが難しい。また、主催者事業費（補助金・助成金案件は除く）や展示面積の把握も難しい。それでも国内で唯一、MICEの経済効果を算出できるモデルであるのは評価している。
- ・使用頻度は年に1回程度。使用感は複雑であるという印象。入力項目によっては実際に情報収集できないこともあって、未記入になることがある。ただ、行政に申し伝えることのできる唯一の手段であるので活用している。観光庁の推奨ということもあって、行政側の信頼度は高いと言える。JNTO国際会議統計に提出するために情報収集している項目を最大限使用して改訂されるとよい。入力する側もその資料（数字）はもっているのもので便利であり、信頼度も高いはずである。

7. 有識者へのヒアリング

- ・1年間に市で開催されたMICE案件をまとめて、①M/I、②C、③Eの3つのカテゴリーで算出している。主にプレスリリース、予算要求等で利用している。MICE誘致戦略プラン策定においても活用した。入力行目の内容と項目数は適当である。算出結果にたいしても信頼できると思う。総合的にも高く評価している。

■次期MICE簡易測定モデルに向けての要望

- ・参加者数（国内、海外別）、開催日数、会議分野、主催者予算を入力する程度で算出できるとよい。特に主催者費用の変動で経済波及効果がどの程度変化するのか分からない。
- ・エクセルの様式をもっと使いやすいフォームに変更できるとよい。
- ・ハイブリッド開催への対応ができるとよい。
- ・行政がどのような項目を求めているのか、行政側にも意見を聴取して改訂の参考にするとういのではないか。
- ・日本人の日帰りと宿泊者の内訳を主催者が把握することが困難なケースがある。
- ・インバウンドのM&Iを取り扱う旅行会社として、全体の80%を海外の企業から予約手配の依頼を受けているが、売り上げと営業収入が重要で、経済波及効果測定モデルを使うケースは通常ない。しかしながら現場の悩みとして、経済波及効果を重視する自治体やCBが、熱心にプロモーションをしても、ホテルやレストランなど受け入れ側が、インバウンドに積極的でない、あるいは体制ができていない場合があり、思うように予約が取れず、候補から外さざるを得ないことがある。このギャップがどうにかならないかと思う。
- ・次期モデル改訂にあたり、ハイブリッド展示会のオンライン配信の要素を反映させたほうがよいかについては、必要ないと考える。なぜなら、今後ハイブリッド展示会はほとんどないからである。オンライン出展では、主催者は売り上げにならないし、出展者は皆リアル出展を望んでいるのが実情である。

8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

(1) ハイブリッド開催の現状

本事業では、オンライン配信の有無や、コストに関して調査を行った。オンライン配信にはリアルタイムオンライン配信とオンデマンド配信の2種類がある。本調査においてハイブリッド会議の定義は、リアルタイムオンライン配信を伴う実地会議とする。リアルタイム配信には会場において配信のためのカメラ、通信機材等を設置するための経費がかかり、現地参加のみの会議とは異なる形態の消費が加わるからである。一方でオンデマンド配信は事前に収録された映像を配信するもので、主催者を始め消費に大きな影響はなく、実地会議とあまり変わらない。

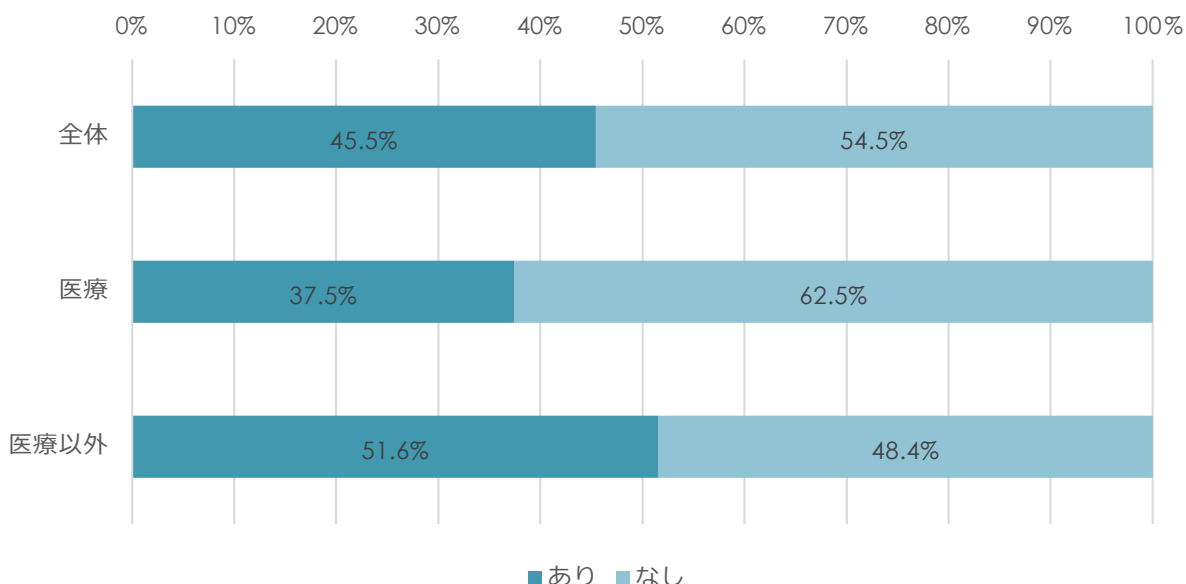
当初よりコロナ禍後も一定の割合でオンライン配信は残ると予測されていたが、今回の調査でリアルタイムオンライン配信を行った国際会議は、全体の45.5%と半数近くに達していた。ただし、2022年10月の水際措置の緩和前に開催された会議も主催者アンケートの対象としているため、現在はそれより低くなっていると推察される。

国際会議への現地参加は有益である一方で、移動のための航空機等の利用によりCO2の排出という環境面の問題もある。昨今ではすべて現地参加にこだわるのではなく、開催地域やテーマによって、オンライン参加と現地参加を選び分けることも考えられる。また、若手研究者や学生等の次世代は、将来の活躍が期待されるものの、金銭的に現地参加が難しい層でもある。これら若年層が現地に行かなくてもオンラインで国際会議に参加できることは機会平等となり、大きなメリットである。

今回の調査（主催者対象）の有効回答の中では、リアルタイムオンライン配信のコストは、1国際会議当たり150,000円から15,801,425円と幅が大きく、オンライン参加者1人当たりの消費額も6,859円から169,231円と分布が大きかった。配信の規模や会議のテーマ等会議の内容によって、コストは大きく変化することが示された。

リアルタイムオンライン配信は、サステナブルな意義から、今後も残ることが予想されるため、会場選定においてもオンライン配信のための通信環境が求められる。なお、今回のヒアリングから、展示会においてはオンライン展示会のニーズはなく、あくまでも現地開催が主流である。

リアルタイムオンライン配信の有無（再掲）



8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

図 リアルタイムオンライン配信のコスト（再掲）

分野	リアルタイム配信有無	リアルタイムオンラインの参加人数	費用（円）	1人当たり（円）
医療系	あり	1028	15,801,425	15,371
それ以外	あり	191	12,625,056	66,100
それ以外	あり	44	9,762,940	221,885
医療系	あり	500	5,000,000	10,000
医療系	あり	250	4,074,299	16,297
医療系	あり	13	2,200,000	169,231
それ以外	あり	55	1,904,119	34,620
それ以外	あり	150	1,800,000	12,000
それ以外	あり	82	1,075,000	13,110
医療系	あり	68	466,400	6,859
それ以外	あり	10	160,000	16,000
それ以外	あり	12	150,000	12,500

8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

(2) サステナビリティへの配慮

国際会議ではフードロス対策やクリーン電力の使用によるCO2削減といったサステナビリティへの取組が強く求められるようになってきている。本調査において主催者と出展者を対象にサステナビリティ関連の参加者1人当たりの消費について把握し、今後の測定モデル改訂において、関連する消費率を組み込むことを予定して実施した。

調査の結果から、総じてサステナビリティへの意識はどちらも高いが、主催者の意識は出展者より高い割合となった。また、主催者の中でも医療系会議主催者で関心を示した層は、医療系以外の会議主催者より割合が多かったが、一方で「とても関心がある」と関心の度合いが強い層は、医療系以外の会議主催者割合の方が多かった。

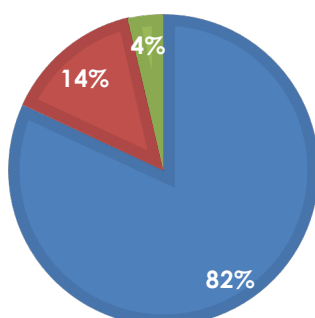
出展者に関しては医療系と医療系以外で大きな違いは見られなかったが、出展者については関心がある層の割合は主催者より低くなり、関心がない層の割合が主催者の割合より多い。

ただし、サステナビリティ関連の製品、サービスの消費額の全体に対する割合についてみると、医療系以外の会議の出展者の割合が高かった。医療系と異なり、会議のテーマ自体がサステナビリティに係るものもある可能性がある。

国際会議の主催者が開催地を決定する理由のひとつにサステナビリティへの配慮を挙げることが増えてきつつある。国際競争力をつけ、誘致を成功させるためにも、サステナビリティへの取り組みはますます重要となる。今回の調査から読み取れるのは、主催者が出展者へサステナビリティへの理解を呼びかけ、具体的な提案をすると共に出展者がそれに協力して装飾素材のリユースやリサイクル等可能な取り組みを行うことが成功のカギとなるのではないか。また、会議ごとの関係者によるサステナビリティへの取組だけでなく、開催候補となる都市自体がMICEのサステナビリティを実践していることも重要である。すでにサステナブルなMICEを開催するためのガイドラインを定めている都市もあるが、同様に各都市がガイドラインを制定し、多くの関係者の理解を広めて誘致開催を推進することが国際競争力強化につながると言える。

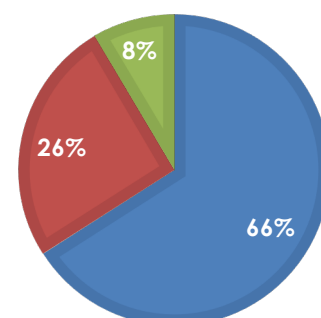
主催者対象サステナビリティ配慮への関心

- とても関心がある+関心がある
- どちらとも言えない
- あまり関心がない+全く関心がない



出展者対象サステナビリティ配慮への関心

- とても関心がある+関心がある
- どちらとも言えない
- あまり関心がない+全く関心がない

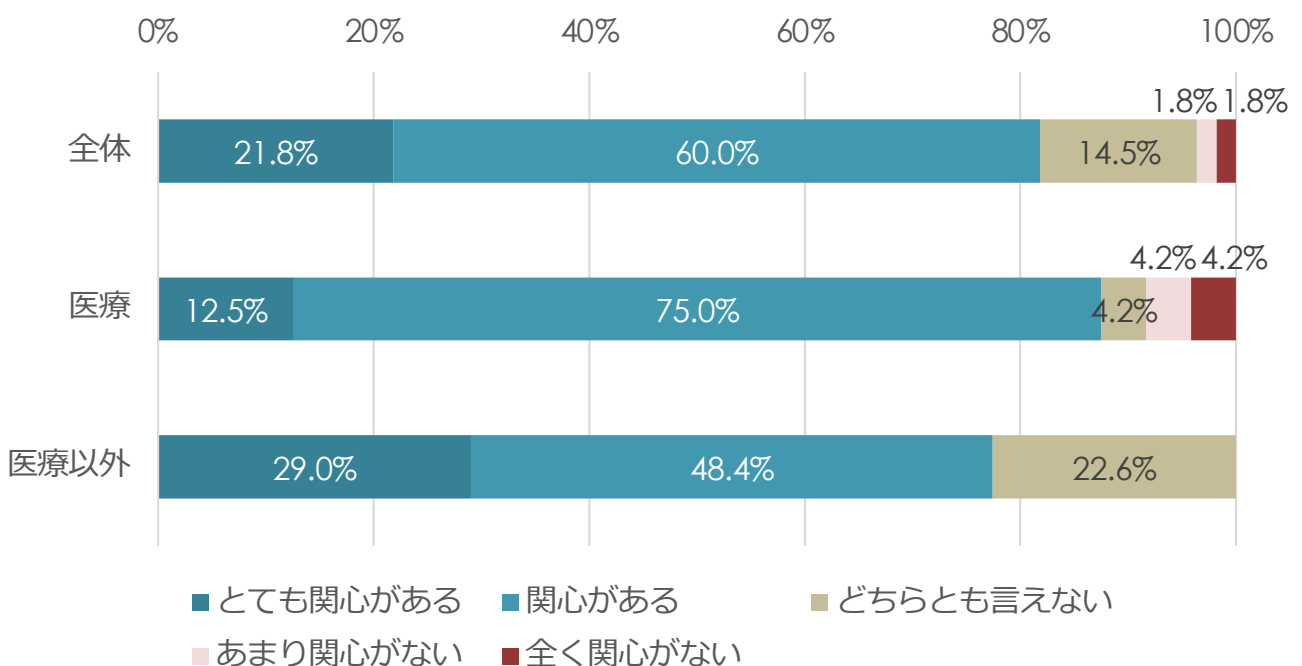


8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

①主催者を対象とした開催地域としてのサステナビリティへの関心

サステナビリティに配慮した製品やサービス購入及び開催地域としてのサステナビリティに関する取組等に関する関心の度合いについて調査した。選択肢は「とても関心がある」から「全く関心がない」まで5段階とした。全体では「とても関心がある」21.8%、「関心がある」60.0%、「どちらとも言えない」14.5%、「あまり関心がない」及び「全く関心がない」各1.8%という結果であった。関心がある主催者は81.8%と高い割合を示した。特に医療系では「とても関心がある」は12.5%と全体平均を下回ったものの、「関心がある」は75.0%に上り、両方合わせて関心がある主催者は87.5%と、平均を上回る結果となった。一方医療系以外の会議も「とても関心がある」29.0%、「関心がある」48.4%と関心がある主催者の割合は合わせて77.4%となり、医療系ほどではないもののやはり高い割合を示した。

主催者対象 開催地域としてのサステナビリティへの関心



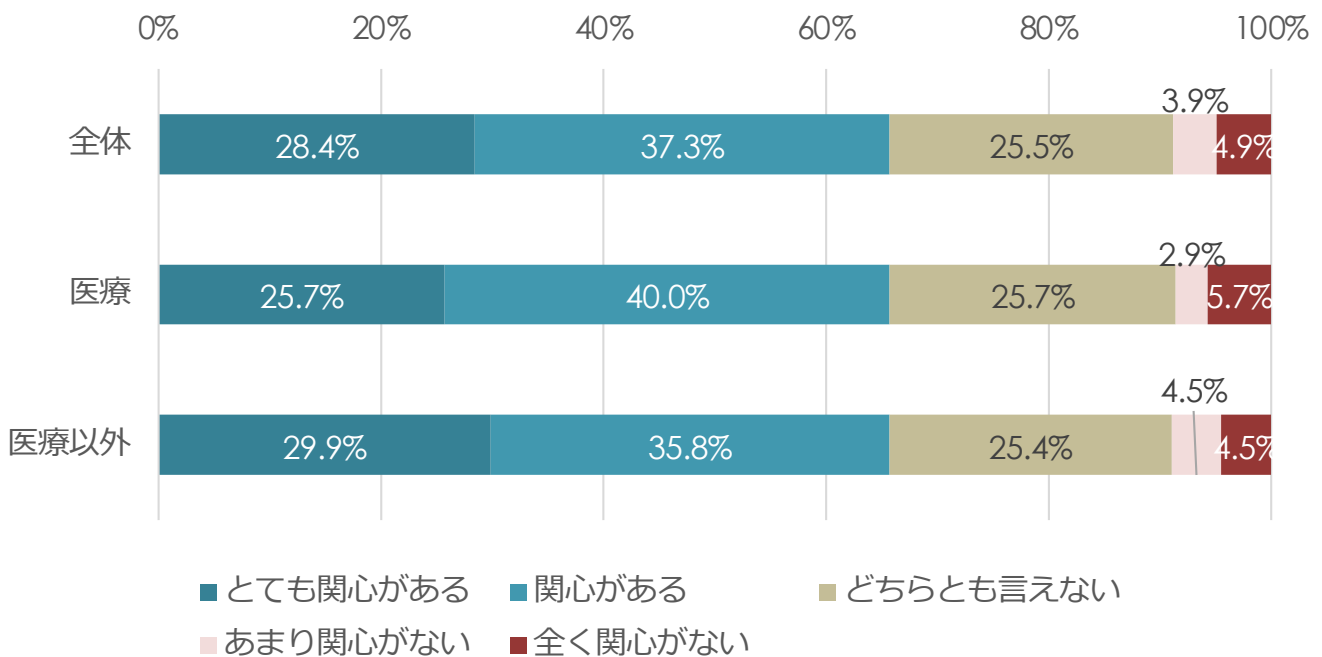
8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

②出展者を対象とした開催地域としてのサステナビリティへの関心

サステナビリティに配慮した製品やサービス購入及び開催地域としてのサステナビリティに関する取組等に関する関心の度合いについて出展者を対象に調査した。選択肢は「とても関心がある」から「全く関心がない」まで5段階とした。全体では「とても関心がある」28.4%、「関心がある」37.3%、「どちらとも言えない」25.5%、「あまり関心がない」3.9%、「全く関心がない」4.9%という結果であった。関心がある出展者は全部で65.7%となった。医療系では「とても関心がある」は25.7%、「関心がある」は40.0%となり、両方合わせて関心がある出展者は67.5%と平均と同割合となった。

一方、医療系以外の会議は「とても関心がある」29.9%、「関心がある」35.8%と関心がある主催者の割合は合わせて65.7%となり、こちらも平均と同割合となった。主催者アンケートの同質問の回答と比較すると、全体で関心層が16.1ポイント低く、対照的に「関心がない」、「全く関心がない」の無関心層は5.2ポイント高い8.8%であった。

出展者対象 開催地域としてのサステナビリティへの関心

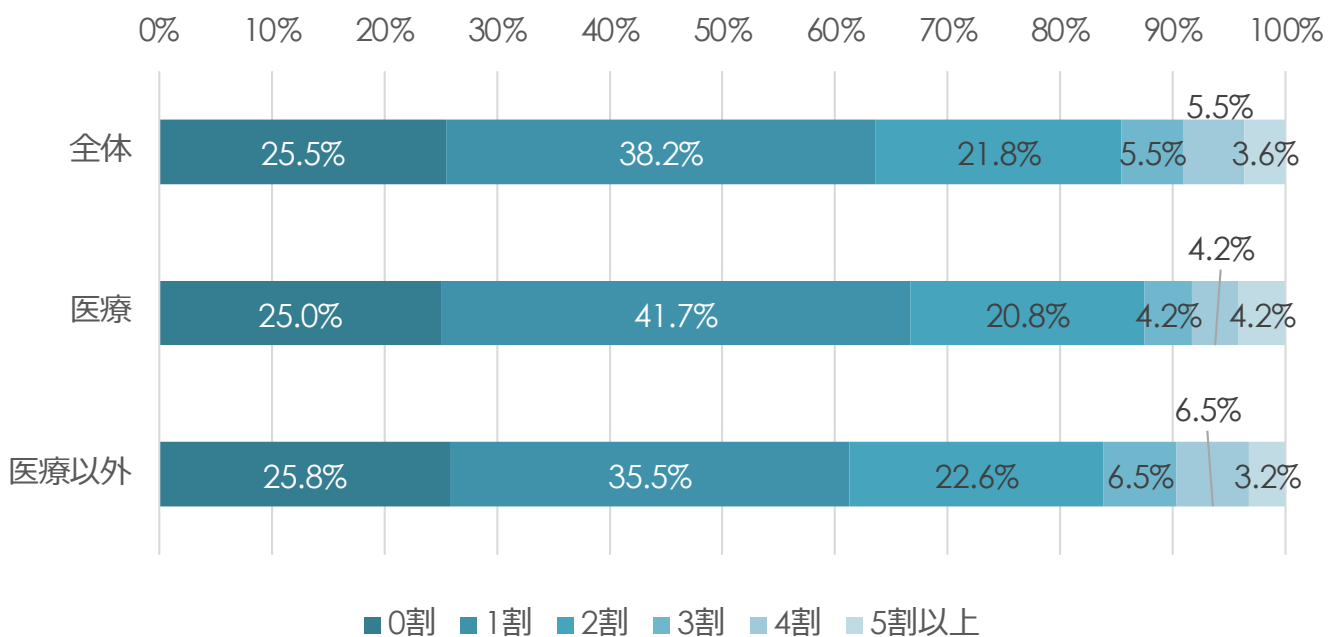


8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

③主催者を対象としたサステナビリティ関連消費額の全体に占める割合

主催者消費額のうち、サステナビリティに配慮した製品やサービスに関連した消費額が占める割合を調査した。選択肢は0割から5割以上までの5段階とした。平均すると全体では13.8%で、医療系が13.3%、医療系以外が14.2%と大きいのはなかった。全体の25.5%が割合0と回答しており、サステナビリティへの関心の高まりから今後割合0は少なくなる可能性がある。

主催者対象 サステナビリティ関連消費額の全体に占める割合

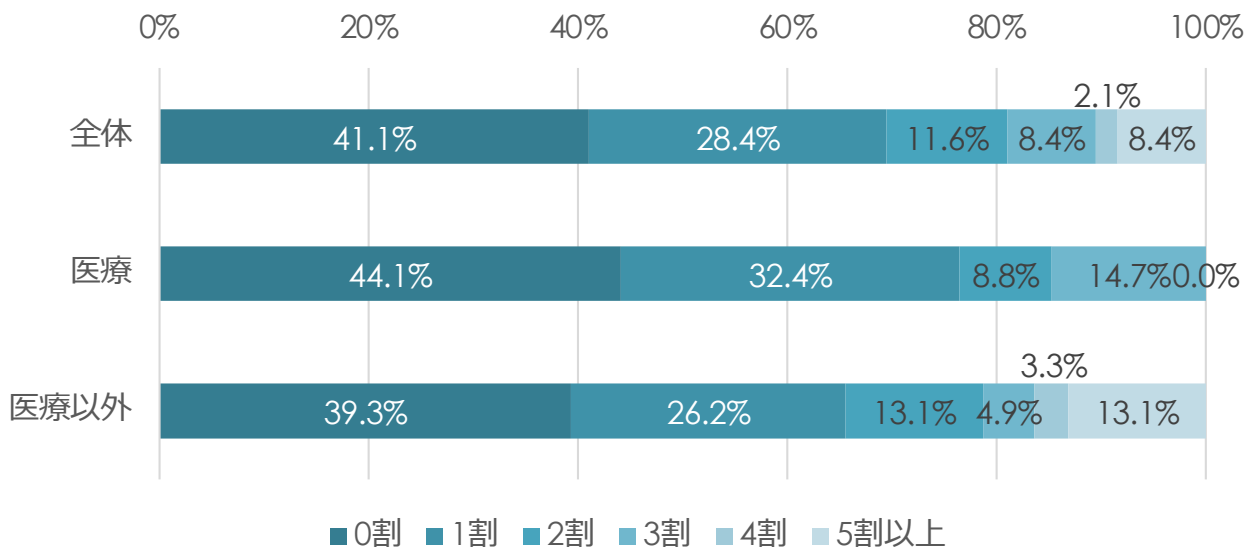


8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

④出展者を対象としたサステナビリティ関連消費額の全体に占める割合

出展者消費額のうち、サステナビリティに配慮した製品やサービスに関連した消費額が占める割合を調査した。選択肢は0割から5割以上までの5段階とした。平均すると全体では12.7%で、医療系が9.4%、医療系以外が14.6%と医療系以外が医療系を上回った。特に医療系以外では5割以上を占めている出展者が13.1%と医療系(0.0%)を圧倒した。一方で全体の41.1%が割合0と回答しており、主催者総消費額の0の割合(25.5%)に比べ、消費の割合において差が出ている。

出展者対象 サステナビリティ関連消費額の全体に占める割合

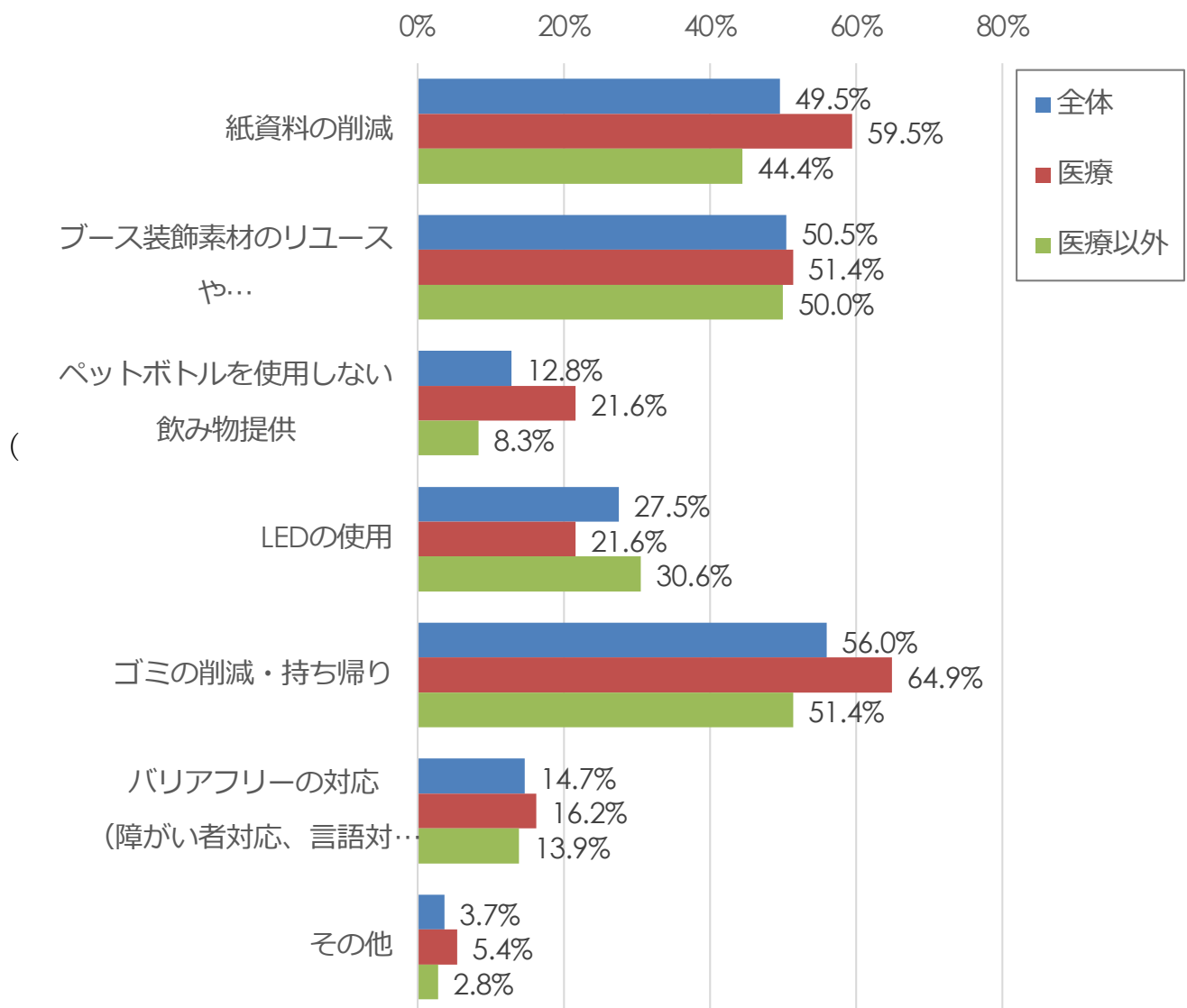


8. ハイブリッド開催とサステナビリティへの配慮

⑤出展者としてのサステナビリティに関する取組

出展者が具体的に取り組んでいるサステナビリティに関する項目を調査した。全体で一番多かったのは、「ゴミの削減・持ち帰り」の56.0%であった。以下「ブース装飾素材のリユースやリサイクル」50.5%、「紙資料の削減」49.5%、「LEDの利用」27.5%、「バリアフリーの対応（障がい者対応、言語対応など）」14.7%、「ペットボトルを使用しない飲み物提供」12.8%、「その他」3.7%という結果となった。

医療系ではやはり「ゴミの削減・持ち帰り」がトップで64.9%と平均を8.9ポイント上回った。次いで「紙資料の削減」の59.5%も平均を10.0ポイント上回り、医療系の環境意識への高さを示した。医療系以外では医療系同様「ゴミの削減・持ち帰り」がトップだったが、割合は51.4%に留まった。次いで「ブース装飾素材のリユースやリサイクル」50.0%、「紙素材の削減」44.4%と小差で続いた。一方で、昨今一般的に関心が向けられている「ペットボトルを使用しない飲み物提供」、「バリアフリーの対応」はまだ10%台となっている。



9. 簡易測定モデルの改訂または新規作成方針の検討

次年度以降に実施する簡易測定モデルの改訂または新規作成に向けて、本調査で得られた示唆を以下に整理する。

(1) 簡易測定モデル全体設計について

本調査で実施したMICE業界のユーザーヒアリングにおいて、現行の簡易測定モデルは概ね高い評価を得ているものの、インプット項目の中に主催者事業費や併設展示会における展示面積、国内エアライン利用率、日本人参加者の日帰り・宿泊の内訳等、把握が困難な項目が存在するというご意見をいただいた。現行の簡易測定モデルでは、これらの項目の内、主催者事業費や国内エアライン利用率については、把握が難しい場合はツール内で自動処理をする設計となっているものの、展示面積や日本人参加者の日帰り・宿泊の内訳は入力が必要の項目となっている。次期簡易測定モデルにおいては、これらの項目の入力を任意とし、入力が難しい場合については本調査のアンケート結果で算出可能な参加者1人当たりの平均展示面積や、国内参加者の日帰り・宿泊比率等を用いて計算が可能な設計とすることを検討する。ただし、いずれの項目についても、ユーザーが実際の数値を把握してツールに入力するのに比べ、計算精度が低下することは否めないため、その旨十分に注意喚起をすることも必要と考えられる。

また、一部のユーザーからはツールをファイル配布方式ではなく、オンライン上で利用できることを望む声も聞かれた。こちらについては技術的側面や安全性の観点、費用対効果について十分に議論し、対応可否を検討する必要がある。

(2) 新規機能導入について

本調査においては、近年の動向として国際会議のリアルタイムオンライン配信やオンデマンド配信が一定程度定着していることを踏まえ、それらに係る主催者消費額の調査を実施した。

リアルタイムオンライン配信については費用が比較的大きく、かつ現行ツールでは考慮していないリアルタイムオンライン参加者人数の多寡が主催者消費額の増加に直結することも踏まえ、次期簡易測定モデルにおいては以下の機能を組み込むことを検討する。ただし、これらの新機能の追加はユーザーの入力の手間や負担を増やすことになるため、任意の入力項目とする。

- ・入力項目にリアルタイムオンライン配信の有無とその参加者数を追加
- ・上記項目に入力があった場合は、P46に示した回帰式によりその費用を算出
- ・算出した費用を総消費額に追加し、経済波及効果の分析を実施

一方、オンデマンド配信についてはP47で整理したように、アンケート調査で収集できたデータが少数であることや、費用も比較的小さいことから、次期簡易測定モデルにおいて、その有無等を入力項目に追加することはせず、主催者消費原単位の内数として組み込むことが適切と考えられる。

また本調査において、主催者消費額に占めるサステナビリティ関連消費額の割合の把握を行った（詳細はP58参照）。この調査結果自体は有用であるものの、簡易測定モデルにその割合を組み込み、総消費額に占める「サステナビリティ関連消費額」を自動算出することについては、今後の検討が必要となる。例えば、個別の国際会議開催に伴う経済波及効果算出を行う場合、モデルから算出される「サステナビリティ関連消費額」は実態と大きく乖離する可能性等が危惧される。

9. 簡易測定モデルの改訂または新規作成方針の検討

(3) 消費原単位の更新について

本調査結果を通じて、特に国際会議参加者の消費原単位は現行の簡易測定モデルから大幅に増加していることが明らかとなった。MICE振興に取り組む自治体やコンベンションビューロー、地域のMICE関連事業者の努力や工夫が、参加者消費額向上に寄与していることは間違いないものの、特に海外居住者の消費額増加については、前回調査時から為替相場が大きく円安に振れたことも影響していると考えられる。

したがって、今後数年間の内にもし為替相場が大きく円高に振れた場合、本調査で得られた消費原単位を使い続けることによって、実態とはことなる消費額算出に繋がる可能性がある。

このような観点から、次期簡易測定モデルの作成にあたっては、産業連関表や産業連関分析のロジックを変えることなく、消費原単位のみを入れ替えることが可能な構造とすることも検討すべきと考えられる。

10. 資料編

アンケート調査票（日本語版のみ掲載）

○アンケート調査票：参加者

A. あなたのことについてお尋ねします。
Q1. 居住地：
都道府県： *
<input type="text" value="お選びください"/>
市町村名（※町丁目・番地は不要）： *
<input type="text"/>
Q2. 職業：*
<input type="text" value="お選びください"/>
Q3. 同伴者の有無：*
<input type="text" value="お選びください"/>
同伴者ありを回答した方のみ、人数を記入ください：
<input type="text"/>
Q4. 国際会議に伴う宿泊数（国際会議の会期前後の観光/ビジネス出張の宿泊も含まれます）：*
<input type="text" value="お選びください"/>
4泊以上をご選択の方のみ、泊数をご記入ください
<input type="text"/>
B. 観光についてお尋ねします。
Q5. 国際会議の会期前後の観光旅行：*
<input type="text" value="お選びください"/>
「あり」の場合、日数をご記入ください：
<input type="text"/>
Q6. 観光旅行の場所・期間：
Q5でありと回答した方のみ、ご回答ください
開催都道府県内：
<input type="text" value="お選びください"/>
開催都道府県外：
<input type="text" value="お選びください"/>
C. 国際会議参加に伴う消費行動についてお尋ねします。
パッケージツアーご利用の方は、項目9にその金額をご記入の上、 下記項目2-8についてはパッケージツアーに含まれない金額をご記入下さい。
*各内訳の消費がない場合はゼロ（0）、消費額が不明な場合は空欄として下さい。 消費額は概算で構いません。
*半角数字のみご記入ください
*国際会議の参加登録費は含みません
1. 総消費額（国際会議の参加登録費は含みません。）（単位：円）：
<input type="text"/>
2. 開催地の都道府県までの往復交通費（単位：円）：
<input type="text"/>
3. 開催地の都道府県内での交通費（単位：円）：
<input type="text"/>
4. 宿泊費（単位：円）：
<input type="text"/>
5. 飲食費（単位：円）：
<input type="text"/>
6. 買物費（研究・業務関連）（単位：円）：
<input type="text"/>
7. 買物費（その他土産）（単位：円）：
<input type="text"/>
8. 観光・娯楽費（単位：円）：
<input type="text"/>
9. パッケージツアー費（単位：円）：
<input type="text"/>

7. 資料編

D. 国際会議参加と併せた周辺観光についてお尋ねいたします。
<B.で観光予定「あり」と回答した方のみ>

前問でご記入いただいた総消費額の内、催事参加に伴う観光に関連した消費額についてご回答ください。
金額もしくは、総消費額に占める比率 (%) のいずれかをご記入下さい。:

E. Cで「パッケージツアー費」としてご記入いただいた金額に含まれる項目を以下の選択肢の中から選んでください。(いくつでも)。
<C.で「パッケージツアー費」に金額を記入した方のみ>

パッケージツアー費に含まれる項目:

- 国内航空券
- その他交通費 (鉄道、バス等)
- 宿泊費
- 飲食費 (朝食を除く)
- 買物費 (土産等を含む)
- 観光・娯楽費
- その他 (自由回答)

その他 (自由回答) はこちらにご記入ください:

F. 以下の点についてあなたのお考えをお聞かせいただけます。(任意回答)

会議開催地に期待する体験コンテンツはどのようなものですか? (いくつでも):

- 伝統・文化体験
- 市民との交流機会
- 地域貢献の機会
- テクニカルビジット
- その他

その他:

国際会議に参加される際、会議参加前後に開催国内で観光をすることにご関心はありますか?
また観光を希望される場合、日本国内のどのような観光コンテンツにご関心がありますか?:

*関心のある方は、ご関心のあるコンテンツにチェックを入れて下さい (いくつでも) 。:

<input type="checkbox"/> 日本食を食べること	<input type="checkbox"/> 舞台・音楽鑑賞
<input type="checkbox"/> 日本の酒を飲むこと	<input type="checkbox"/> スポーツ観戦
<input type="checkbox"/> 旅館に宿泊	<input type="checkbox"/> 自然体験ツアー・農山漁村体験
<input type="checkbox"/> 温泉入浴	<input type="checkbox"/> 四季の体感
<input type="checkbox"/> 自然・景勝地観光	<input type="checkbox"/> 映画・アニメ縁の地を訪問
<input type="checkbox"/> 繁華街の街歩き	<input type="checkbox"/> 日本の歴史・伝統文化体験
<input type="checkbox"/> ショッピング	<input type="checkbox"/> 日本の日常生活体験
<input type="checkbox"/> 美術館・博物館等	<input type="checkbox"/> 日本のポップカルチャーを楽しむ
<input type="checkbox"/> テーマパーク	<input type="checkbox"/> 治療・検診
<input type="checkbox"/> スキー・スノーボード	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> その他スポーツ	<input type="checkbox"/> 特になし

その他:

観光目的で滞在を延長する場合、何日程度滞在をしたいと思いますか?:

観光目的で会議前後に滞在する場合、電車や飛行機等、何時間程度の移動でしたら訪問先として候補となり得ますか?:

確認画面に進む

7. 資料編

観光庁総消費額調査

日本人主催者向けアンケート調査票 回答期限：2024年3月5日（火）

A. 催事概要についてお尋ねします。

Q1. 国際会議名称：*

Q2. 国際会議のテーマ：*

Q3. 現地会場参加者数

参加者総数：*

うち、外国人参加者数：*

Q4. リアルタイムオンライン配信の有無：*

その参加者数：*

うち外国人数：*

Q5. オンデマンド配信の有無：*

Q6. 企業等の出展ブースの有無：*

出展者数：*

B. 国際会議開催に要した費用についてお尋ねします。

各項目については把握されている範囲で結構ですので概算費用をご記入ください。
総額のみを把握されている場合は「1. 総消費額」のみご記入ください。

※各内訳の消費がない場合はゼロ（0）、消費額が不明な場合は空欄として下さい。
消費額は概算で構いません。

※半角数字のみご記入ください

1. 総消費額 ※総額のみを把握されている場合はこちらにご入力ください（単位：円）：

2. 会場利用料（リアル会場）（単位：円）：

3. リアルタイムオンライン配信費（システム利用費や外注費等の総額）（単位：円）：

4. オンデマンド配信費（同上）（単位：円）：

5. 会場装飾・工事費（ブース設営、看板・装飾、電気工事等）（単位：円）：

6. 機材レンタル費（什器、音響・照明・映像・同時通訳機器）（単位：円）：

7. 運営管理費（通訳、翻訳関連、警備等）（単位：円）：

8. 専用回線等の回線利用料（専用回線の敷設・利用等、会場費とは別集計）（単位：円）：

9. システム利用料（登録システム、演題・論文処理システム等）（単位：円）：

10. 付随イベント費（本催事以外でのパーティー、エクスカージョンツアー等）（単位：円）：

会場外で開催されるパーティーやイベントも含まず。

7. 資料編

11. 参加者向け飲食費（無料での提供を行った場合のみ）（単位：円）：	<input type="text"/>
12. 運送・輸送費（タクシー・バス借上代、参加者移動経費等）（単位：円）：	<input type="text"/>
13. 印刷製本費（単位：円）：	<input type="text"/>
14. 広告宣伝費（単位：円）：	<input type="text"/>
15. 臨時人件費（受付・事務局スタッフ等）（単位：円）：	<input type="text"/>
<small>派遣社員の宿泊費・交通費を含みませぬ。</small>	
16. 事務局経費（事務用品調達等、ただし、人件費は除く）（単位：円）：	<input type="text"/>
17. スタッフ宿泊費（単位：円）：	<input type="text"/>
18. スタッフ飲食費（単位：円）：	<input type="text"/>
19. スタッフの開催都道府県までの往復交通費（航空機、新幹線、特急運賃等）（単位：円）：	<input type="text"/>
20. スタッフの開催都道府県内交通費（単位：円）：	<input type="text"/>
<small>事務局が会場と同じ県内にある場合、こちらに該当します。</small>	
21. その他（単位：円）：	<input type="text"/>
C. サステナビリティに関連するお取組み内容についてお尋ねいたします。	
Q1. 国際会議開催に際し、サステナビリティに配慮した製品やサービス購入、開催地域としてのサステナビリティに関する取組等に関するご関心についてご回答ください。：*	<input type="text"/>
Q2. Bでご記入いただいた総消費額の内、サステナビリティに配慮した製品やサービスに関連した消費額が総消費額に占める割合について概数で結構ですのでご回答ください。：*	<input type="text"/>
D. 以下の点についてお考えをお伺いさせていただきます。	
他国と比較し、日本で開催コストが高いと感じる項目はどのようなものですか？：	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> 会場費 <input type="checkbox"/> 宿泊費 <input type="checkbox"/> 機材費 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> その他	
その他：	<input type="text"/>
他国と比較し、日本で開催コストが安値だと感じる項目はどのようなものですか？：	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> ユニークベニュー利用 <input type="checkbox"/> エクスカーションツアー <input type="checkbox"/> 食事手配（多様性への対応） <input type="checkbox"/> サステナビリティ対応 <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> その他	
その他：	<input type="text"/>
確認画面に進む	

7. 資料編

○アンケート調査票：出展者

観光庁総消費額調査

日本人出展者向けアンケート調査票 回答期限：2024年3月5日（火）

A. 国際会議への出展概要についてお尋ねします。

Q1. 出展した国際会議名称： *

Q2. 出展した国際会議の開催地：
都道府県：
お選びください
市町村名（※町丁目・番地は不要）：

Q3. 出展した国際会議のテーマ： *
Q4. 出展ブース面積（単位：㎡）（半角数字）： *
Q5. 出展日数（半角数字）： *
Q6. 当該国際会議における併設オンライン展示会の有無： *
出展の有無：
お選びください **B. ブース出展に要した費用についてお尋ねします。**

7. 資料編

○アンケート調査票：出展者

15. スタッフの開催都道府県までの往復交通費（単位：円）：

16. スタッフの開催都道府県内交通費（単位：円）：

17. その他（単位：円）：

C. サステナビリティに関連するお取組み内容についてお尋ねいたします。

Q1. 国際会議への出展に際し、サステナビリティに配慮した製品やサービス購入、開催地域としてのサステナビリティに関する取組等に関するご関心についてご回答ください。

お選びください

Q2. Bでご記入いただいた総消費額の内、サステナビリティに配慮した製品やサービスに関連した消費額が総消費額に占める割合について概数で結構ですのでご回答ください。

お選びください

Q3. 昨今多くの国際会議の開催においてはサステナブルな社会を実現するため、主催者によりさまざまな工夫がなされています。出展者としてのサステナビリティに関する取り組みで下記の項目に該当するものに○をつけてください。（いくつでも）：

紙資料の削減
 ブース装飾素材のリユースやリサイクル
 ペットボトルを使用しない飲み物提供
 LEDの使用
 ゴミの削減・持ち帰り
 バリアフリーの対応（障がい者対応、言語対応など）
 その他

その他：

D. 以下の点についてお考えをお伺いさせていただきます。

1. 国際会議への出展に際し、効果として重視するものに○をつけてください。（3つまで）：

国内販路の拡大
 国際販路の拡大
 主催者との関係強化
 情報収集
 国内参加者とのネットワーク
 海外参加者とのネットワーク
 その他

その他：

2. 今回の出展とは無関係に、地方公共団体、コンベンションビューロー等に対し、地元開催の展示会の出展における支援費として望むものに○をつけてください。（2つまで）：

出展経費の一部補助
 スタッフ経費の一部補助
 地元の装飾事業者利用の際の経費の一部補助
 ブースにおけるギブアウェイの提供
 出展・商談のノウハウのレクチャー
 その他

その他：

[確認画面に進む](#)

(C)2023 観光庁総消費額調査